

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2025年6月24日
【事業年度】	第76期(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
【会社名】	松田産業株式会社
【英訳名】	MATSUDA SANGYO Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 社長執行役員 松 田 芳 明
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿一丁目26番2号
【電話番号】	03(5381)0001(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理部長 田 中 善 則
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿一丁目26番2号
【電話番号】	03(5381)0001(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理部長 田 中 善 則
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	2021年 3 月	2022年 3 月	2023年 3 月	2024年 3 月	2025年 3 月
売上高 (百万円)	231,559	272,292	351,028	360,527	468,841
経常利益 (百万円)	8,369	13,734	13,843	10,551	13,523
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	6,098	9,558	9,696	7,286	9,456
包括利益 (百万円)	6,398	9,681	11,506	8,517	10,444
純資産 (百万円)	65,605	74,420	84,648	91,374	100,134
総資産 (百万円)	104,265	115,797	129,208	148,937	168,900
1株当たり純資産額 (円)	2,510.64	2,848.19	3,238.61	3,515.61	3,848.51
1株当たり当期純利益 (円)	232.68	366.40	371.70	280.20	364.87
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	62.8	64.2	65.4	61.2	59.1
自己資本利益率 (%)	9.7	13.7	12.2	8.3	9.9
株価収益率 (倍)	8.75	6.76	6.11	8.93	9.52
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	185	7,032	10,646	1,833	2,542
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,181	2,521	12,194	7,956	6,243
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	261	2,261	1,382	8,084	210
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	8,803	11,379	11,761	14,449	11,428
従業員数 (名)	1,468 (98)	1,500 (96)	1,605 (93)	1,624 (97)	1,698 (92)

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 従業員数は、就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で表示しております。
- 3 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第73期の期首から適用しており、第73期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
- 4 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第76期の期首から適用してます。また、2022年改正会計基準については第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱いを適用し、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)については第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いを適用しております。なお、主要な経営指標等に与える影響はありません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	2021年 3 月	2022年 3 月	2023年 3 月	2024年 3 月	2025年 3 月
売上高 (百万円)	221,960	265,536	343,554	354,579	467,137
経常利益 (百万円)	6,644	12,471	11,300	9,096	10,978
当期純利益 (百万円)	5,040	9,043	8,041	6,807	7,990
資本金 (百万円)	3,559	3,559	3,559	3,559	3,559
発行済株式総数 (千株)	28,908	28,908	26,908	26,908	26,908
純資産 (百万円)	57,188	64,927	72,273	77,187	83,189
総資産 (百万円)	93,747	103,856	116,584	133,884	150,784
1株当たり純資産額 (円)	2,192.26	2,488.97	2,770.60	2,978.24	3,209.83
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	38.00 (18.00)	46.00 (22.00)	50.00 (25.00)	60.00 (30.00)	75.00 (35.00)
1株当たり当期純利益 (円)	192.33	346.68	308.28	261.79	308.31
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	61.0	62.5	62.0	57.7	55.2
自己資本利益率 (%)	9.1	14.8	11.7	9.1	10.0
株価収益率 (倍)	10.59	7.14	7.37	9.55	11.27
配当性向 (%)	19.8	12.7	16.2	22.9	24.3
従業員数 (名)	1,071 (89)	1,091 (85)	1,168 (81)	1,160 (85)	1,186 (82)
株主総利回り (比較指標：TOPIX) (%)	151.3 (128.6)	186.1 (131.2)	174.9 (138.8)	195.8 (196.2)	295.3 (213.4)
最高株価 (円)	2,185	3,820	2,530	2,788	3,640
最低株価 (円)	1,137	2,007	1,940	2,050	2,300

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 従業員数は、就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で表示しております。
- 3 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第73期の期首から適用しており、第73期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
- 4 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第76期の期首から適用しております。また、2022年改正会計基準については第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱いを適用しております。この結果、第76期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準を適用した後の指標等となっております。なお、主要な経営指標等と与える影響はありません。
- 5 最高株価及び最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所市場第一部におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所プライム市場におけるものであります。
- 6 2025年3月期の1株当たり配当金75.00円のうち、期末配当額40.00円については、2025年6月25日開催予定の定時株主総会決議事項となっております。

2 【沿革】

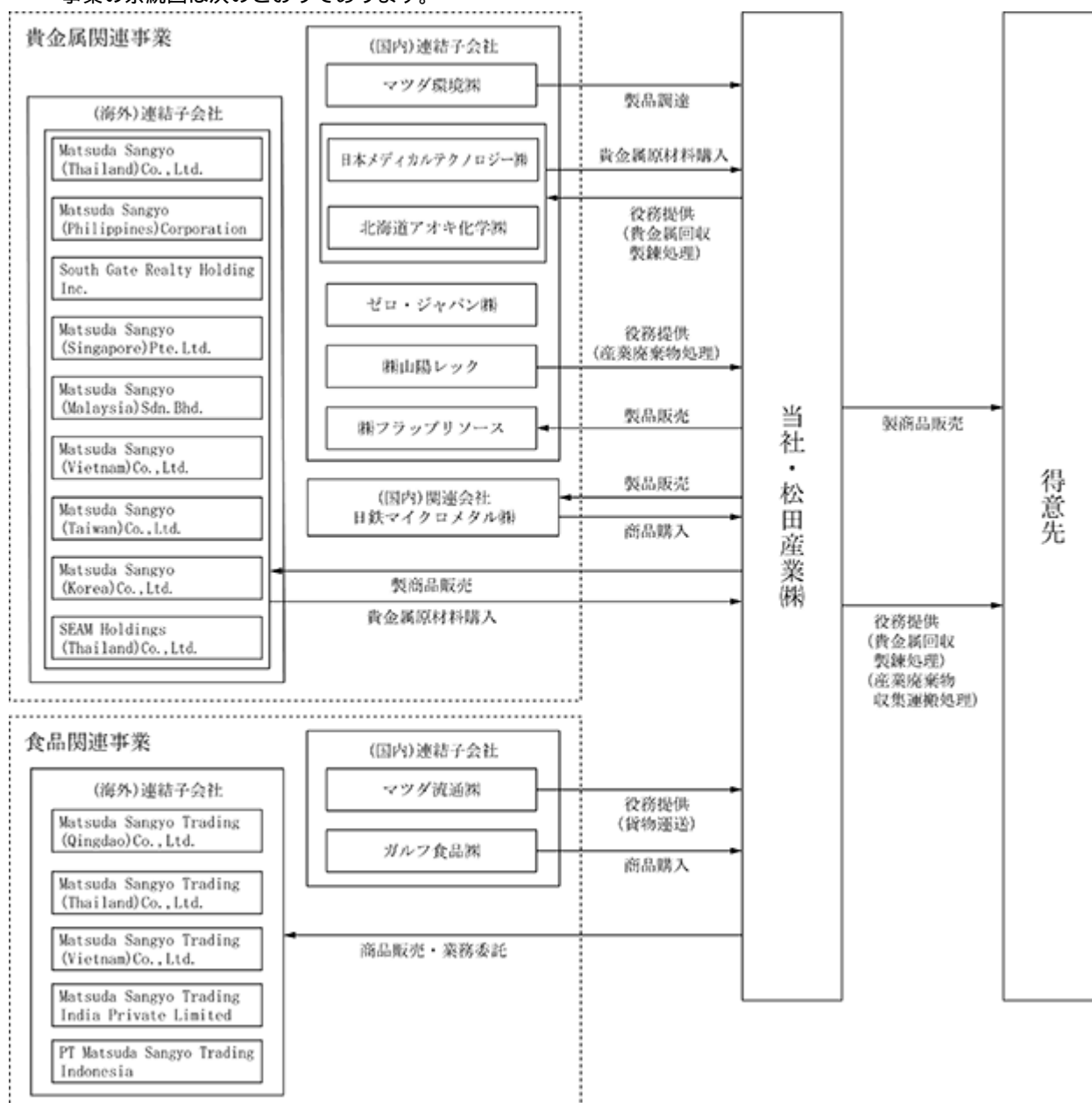
年月	事項
1951年 6 月	松田商店を組織変更して竹善商事(株)(当社の形式上の存続会社)を設立。
1956年 5 月	卵白の販売を目的とした(株)松田商店(旧・松田産業(株))を東京都中野区に設立。
1957年 5 月	金属の製錬並びに販売を目的とした(株)松田商店(旧・マツダメタル工業(株))を東京都練馬区に設立。
1964年 5 月	(株)松田商店(旧・松田産業(株))の商号を松田産業(株)に変更。
1964年 9 月	魚肉すりみの取扱開始。
1971年12月	金属の製錬を目的とした武蔵工場を埼玉県入間市に新設。
1973年 4 月	(株)松田商店(旧・マツダメタル工業(株))の商号をマツダメタル工業(株)に変更。
1973年12月	冷凍、乾燥野菜及び植物性蛋白の取扱開始。
1976年 1 月	冷凍魚類の取扱開始。
1978年 9 月	半導体・電子部品業界を対象とした貴金属のリサイクル事業を目的としてマツダ貴金属工業(株)(当社の実質上の存続会社)を東京都練馬区に設立。
1979年 3 月	竹善商事(株)の商号を豊洋物産(株)に変更。
1979年 3 月	畜肉類の取扱開始。
1981年10月	グループ各社の本社機能を東京都新宿区新宿野村ビルに移転。
1981年11月	電子工業用貴金属製品の製造加工及び販売等を目的としたマツダ電子工業(株)を埼玉県入間市に設立。
1982年 1 月	豊洋物産(株)を存続会社とし、同社とマツダ貴金属工業(株)が合併、商号をマツダ貴金属工業(株)に変更。
1986年 3 月	貴金属製錬の前処理を目的とした入間工場を埼玉県入間市に新設。
1987年 2 月	新日本製鐵(株)(現・日本製鉄(株))と共同出資(出資比率：当社30%、新日本製鐵(株)(現・日本製鉄(株))70%)で、マツダ電子工業(株)の事業を実質的に継承する会社として、(株)日鉄マイクロメタル(現・日鉄マイクロメタル(株)、現・関連会社)を埼玉県入間市に設立。
1989年 8 月	半導体製造治具の精密洗浄事業開始。
1990年11月	グループ各社の配送請負を目的としたマツダ流通(株)(現・連結子会社)を設立。
1992年 7 月	マツダ貴金属工業(株)を存続会社とし、同社及び松田産業(株)、マツダメタル工業(株)、マツダプロセッシング(株)が合併、商号を松田産業(株)(当社)に変更。
1992年 7 月	東京工業品取引所から同所におけるパラジウムの鑑定業者に指定され、また当社のパラジウム地金が東京工業品取引所の認定を受け、受渡供用品として登録。
1992年 9 月	マツダ化学(株)より産業廃棄物関連事業の全部を営業譲受。
1992年11月	シンガポールにシンガポール支店を開設。
1993年 5 月	東京工業品取引所から同所における金、銀及び白金の鑑定業者に指定され、また当社製の金地金、銀地金及び白金地金が東京工業品取引所の認定を受け、受渡供用品として登録。
1995年 1 月	当社製の白金地金及びパラジウム地金がロンドン・プラチナ・パラジウム・マーケット(LPMM)の指定ブランドとして認可。
1995年 8 月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
1997年 1 月	デンタル業界を対象とした貴金属含有スクラップの回収を目的とした日本メディカルテクノロジー(株)(現・連結子会社)を設立。
1997年 3 月	北海道地区における産業廃棄物関連事業の拠点として、北海道アオキ化学(株)(現・連結子会社)を買収。
1997年 7 月	マツダ流通(株)の産業廃棄物収集・運搬及び処理業を分離して、マツダ環境(株)(現・連結子会社)を設立。
1998年 4 月	埼玉県入間市に武蔵第2工場を開設。
1998年12月	ALD Vacuum Technologies GmbHと共同出資(出資比率：当社60%、ALD Vacuum Technologies GmbH 40%)で産業廃棄物を対象としたリサイクル事業分野に進出するため、ゼロ・ジャパン(株)(現・連結子会社)を設立。
1999年10月	武蔵工場、武蔵第2工場及び入間工場において「国際環境規格ISO14001」の認証を取得。
1999年12月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場。
2000年 1 月	当社製の金地金及び銀地金がロンドン金銀市場(LBMA)の認定を受け、受渡供用品として登録。
2000年10月	タイにおける貴金属含有スクラップの回収を目的としたMatsuda Sangyo (Thailand) Co.,Ltd.(出資比率：当社49%、現・連結子会社)を設立。
2001年 9 月	東京証券取引所市場第一部に指定。
2002年 8 月	貴金属関連事業における技術開発、分析、設備技術を目的とした開発センターを埼玉県入間市に新設。
2003年 2 月	Matsuda Sangyo (Thailand) Co.,Ltd.において貴金属製錬の前処理を目的とした工場を新設。
2004年 2 月	フィリピンにおける貴金属含有スクラップの回収を目的としたMatsuda Sangyo (Philippines) Corporation(現・連結子会社)を設立。
2004年 3 月	連結子会社であるMatsuda Sangyo (Thailand) Co.,Ltd.の株式を追加取得(出資比率：当社100%)。
2005年 2 月	シンガポールにおける貴金属含有スクラップの回収を目的としたMatsuda Sangyo (Singapore) Pte.Ltd.(現・連結子会社)を設立。
2006年 3 月	環境事業部において「国際環境規格ISO14001」の認証を取得。 精密洗浄事業及び化成成品事業に係わる生産本部と貴金属事業部の関連事業所において「国際品質規格ISO9001」の認証を取得。
2007年 3 月	連結子会社であるゼロ・ジャパン(株)の株式を追加取得(出資比率：当社100%)。
2007年 4 月	中国における貴金属含有スクラップの回収及び販売を目的としたMatsuda Resource Recycling(Suzhou) Co.,Ltd.を設立。

年月	事項
2007年 6 月	Matsuda Sangyo (Thailand) Co.,Ltd.の工場において貴金属製錬工程が稼働。
2009年 6 月	マレーシアにおける貴金属関連事業の拡大を目的としたMatsuda Sangyo (Malaysia) Sdn.Bhd.(現・連結子会社)を設立。
2009年 6 月	産業廃棄物収集・運搬及び小口廃液の取扱拡充を目的とした狭山事業場を埼玉県狭山市に新設。
2011年11月	台湾に台湾支店を開設。
2012年 2 月	Matsuda Sangyo (Malaysia) Sdn.Bhd.において貴金属製錬を目的とした工場を新設。
2012年 6 月	中国における食品の輸出入及び卸売等を目的としたMatsuda Sangyo Trading (Qingdao) Co.,Ltd.(現・連結子会社)を設立。
2013年 1 月	タイにおける食品の輸出入及び卸売等を目的としたMatsuda Sangyo Trading (Thailand) Co.,Ltd.(出資比率:当社49%、現・連結子会社)を設立。
2013年 5 月	フィリピンにおける不動産賃貸を目的としたSouth Gate Realty Holding Inc.に出資(出資比率:MSPC40%、現・連結子会社)。
2014年 1 月	埼玉県入間市に武蔵第3工場を開設。
2014年 3 月	ベトナムにおける貴金属関連事業の拡大を目的としたMatsuda Sangyo (Vietnam) Co.,Ltd.(現・連結子会社)を設立。
2016年 2 月	食品の専門商社であるガルフ食品㈱(現・連結子会社)の株式を取得。
2016年 4 月	Matsuda Sangyo (Vietnam) Co.,Ltd.において貴金属製錬を目的とした工場を新設し、製造を開始。
2016年 9 月	西日本地域での貨物の集約、前処理設備の拡充を通じた効率化を目的として、岐阜県関市に工場用土地及び建物等を取得。
2017年 3 月	岐阜県関市の関工場が稼働を開始。
2017年 5 月	ベトナムにおける食品の輸出入及び卸売等を目的としたMatsuda Sangyo Trading (Vietnam) Co.,Ltd.(現・連結子会社)を設立。
2018年 9 月	産業廃棄物の積替保管及び取扱拡充を目的とした関第二工場を岐阜県関市に設置。
2019年 2 月	台湾における貴金属関連事業の拡大を目的としたMatsuda Sangyo (Taiwan) Co.,Ltd.(現・連結子会社)を設立。
2021年 4 月	大韓民国における貴金属関連事業の営業体制の強化並びに市場調査を目的としたMatsuda Sangyo (Korea) Co.,Ltd.(現・連結子会社)を設立。
2022年 3 月	インドにおける食品の輸出入及び卸売等を目的としたMatsuda Sangyo Trading India Private Limited(現・連結子会社)を設立。
2022年 4 月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第一部からプライム市場へ移行。
2022年11月	インドネシアにおける食品の輸出入及び卸売等を目的としてPT Matsuda Sangyo Trading Indonesia(現・連結子会社)の株式を取得。
2022年11月	中国におけるMatsuda Resource Recycling(Suzhou)Co.,Ltd.の清算が終了。
2023年10月	タイにおける外資規制事業の統括を目的としたSEAM Holdings (Thailand) Co.,Ltd.(現・連結子会社)を設立。
2024年 1 月	福岡県北九州市に北九州工場を新設。
2024年 8 月	埼玉県入間市の武蔵第4工場の稼働開始。
2025年 2 月	リチウムイオン電池のリサイクル事業の拡大等を目的として、㈱山陽レック及び㈱フラップリソース(現・連結子会社)の株式を取得。

3 【事業の内容】

当社の企業集団は、当社、子会社22社及び関連会社1社で構成され、貴金属回収製錬、貴金属地金・電子材料他の販売及び産業廃棄物の収集・運搬・処理を行う貴金属関連事業、食品加工原材料販売及び物流サービスを行う食品関連事業を主たる事業内容としております。子会社のマツダ環境㈱、日本メディカルテクノロジー㈱、北海道アオキ化学㈱、ゼロ・ジャパン㈱、㈱山陽レック、㈱フラップリソース、Matsuda Sangyo (Thailand) Co., Ltd.、Matsuda Sangyo (Philippines) Corporation、South Gate Realty Holding Inc.、Matsuda Sangyo (Singapore) Pte.Ltd.、Matsuda Sangyo (Malaysia) Sdn. Bhd.、Matsuda Sangyo (Vietnam) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo (Taiwan) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo (Korea) Co.,Ltd.及びSEAM Holdings (Thailand) Co.,Ltd.においては、当社の貴金属関連事業の対象業界または地域について補完しております。マツダ流通㈱においては当社の食品関連事業の物流を担当しており、ガルフ食品㈱、Matsuda Sangyo Trading (Qingdao) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo Trading (Thailand) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo Trading (Vietnam) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo Trading India Private Limited及びPT Matsuda Sangyo Trading Indonesiaにおいては食品関連事業の対象業界または地域について補完しております。関連会社の日鉄マイクロメタル㈱においては当社貴金属関連事業の取扱商品であるボンディングワイヤなどの電子材料を生産しております。

事業の系統図は次のとおりであります。



- (注) 1 関連会社は、持分法適用会社に該当しております。
2 ㈱山陽レック及び㈱フラップリソースは2025年2月28日付の株式取得により、当社の連結子会社となりました。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有 割合 (%)	
(連結子会社) マツダ流通(株)	東京都新宿区	80	食品関連事業	100.0		当社物流の委託先 役員の兼任等 5名 (うち当社従業員 5名)
マツダ環境(株)	東京都新宿区	50	貴金属関連事業	100.0		当社製品の調達先 当社の資金援助先 役員の兼任等 4名 (うち当社従業員 4名)
日本メディカル テクノロジー(株)	東京都新宿区	60	貴金属関連事業	100.0 (100.0)		当社原材料の調達先 役員の兼任等 5名 (うち当社従業員 5名)
北海道アオキ化学(株)	札幌市白石区	15	貴金属関連事業	100.0 (100.0)		当社原材料の調達先 役員の兼任等 5名 (うち当社従業員 5名)
ゼロ・ジャパン(株)	東京都新宿区	200	貴金属関連事業	100.0		役員の兼任等 4名 (うち当社従業員 4名)
ガルフ食品(株)	東京都中央区	15	食品関連事業	100.0		当社商品の調達先 役員の兼任等 4名 (うち当社従業員 4名)
(株)山陽レック (注8)	広島県広島市 安佐北区	10	貴金属関連事業	100.0		産廃処理の委託先 役員の兼任等 6名 (うち当社従業員 6名)
(株)フラップリソース (注8)	広島県広島市 安佐北区	10	貴金属関連事業	100.0		非鉄系原材料の販売先 役員の兼任等 3名 (うち当社従業員 3名)
Matsuda Sangyo (Thailand)Co.,Ltd. (注7)	タイ	695 (240百万THB)	貴金属関連事業	100.0 (51.0)		当社原材料の調達先 当社製商品の販売先 当社の資金援助先 役員の兼任等 4名 (うち当社従業員 4名)
Matsuda Sangyo (Philippines) Corporation	フィリピン	218 (92百万PHP)	貴金属関連事業	100.0		当社原材料の調達先 当社製商品の販売先 当社の資金援助先 役員の兼任等 3名 (うち当社従業員 3名)
Matsuda Sangyo (Singapore)Pte.Ltd.	シンガポール	325 (5百万SGD)	貴金属関連事業	100.0		当社原材料の調達先 当社製商品の販売先 役員の兼任等 4名 (うち当社従業員 4名)
Matsuda Sangyo (Malaysia)Sdn.Bhd. (注7)	マレーシア	1,213 (41百万MYR)	貴金属関連事業	100.0		当社原材料の調達先 当社製商品の販売先 役員の兼任等 3名 (うち当社従業員 3名)
Matsuda Sangyo Trading (Qingdao) Co.,Ltd.	中国	110 (7百万CNY)	食品関連事業	100.0		当社商品販売の委託先 当社の資金援助先 役員の兼任等 4名 (うち当社従業員 4名)

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有 割合 (%)	
Matsuda Sangyo Trading (Thailand) Co.,Ltd.	タイ	5 (2百万THB)	食品関連事業	49.0 [51.0]		当社商品販売の委託先 当社の資金援助先 役員の兼任等 5名 (うち当社従業員 5名)
South Gate Realty Holding Inc.	フィリピン	2 (1百万PHP)	貴金属関連事業	40.0 (40.0) [60.0]		不動産賃貸 当社の資金援助先 役員の兼任等 2名 (うち当社従業員 2名)
Matsuda Sangyo (Vietnam)Co.,Ltd. (注7)	ベトナム	793 (8百万USD)	貴金属関連事業	100.0		当社原材料の調達先 当社製商品の販売先 当社の資金援助先 役員の兼任等 3名 (うち当社従業員 3名)
Matsuda Sangyo Trading (Vietnam) Co.,Ltd.	ベトナム	56 (0.5百万USD)	食品関連事業	100.0		当社商品販売の委託先 役員の兼任等 3名 (うち当社従業員 3名)
Matsuda Sangyo (Taiwan)Co.,Ltd. (注7)	中華民国	360 (100百万NTD)	貴金属関連事業	100.0		当社原材料の調達先 当社製商品の販売先 役員の兼任等 4名 (うち当社従業員 4名)
Matsuda Sangyo (Korea)Co.,Ltd.	大韓民国	9 (100百万KRW)	貴金属関連事業	100.0		当社原材料の調達先 当社製商品の販売先 当社の資金援助先 役員の兼任等 4名 (うち当社従業員 4名)
Matsuda Sangyo Trading India Private Limited	インド	33 (20百万INR)	食品関連事業	100.0		当社商品販売の委託先 役員の兼任等 3名 (うち当社従業員 3名)
PT Matsuda Sangyo Trading Indonesia	インドネシア	47 (5,220百万 IDR)	食品関連事業	100.0 (0.2)		当社商品販売の委託先 役員の兼任等 4名 (うち当社従業員 4名)
SEAM Holdings (Thailand) Co.,Ltd.	タイ	83 (20百万THB)	貴金属関連事業	49.0 [51.0]		コンサルティング関連事 業 役員の兼任等 3名 (うち当社従業員 3名)
(持分法適用関連会社) 日鉄マイクロメタル(株)	埼玉県入間市	250	貴金属関連事業	30.0		当社製品の販売先 当社商品の調達先 役員の兼任等 2名 (うち当社従業員 1名)

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
- 2 上記連結子会社は有価証券届出書または有価証券報告書を提出していません。
- 3 上記連結子会社のうち、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が100分の10を超える会社はありません。
- 4 「関係内容」欄に記載の役員の兼任等には、当社役員及び従業員の当該会社役員兼任のほか出向も含まれております。
- 5 「議決権の所有(被所有)割合」欄の()内は間接所有の割合を内数で表示しております。
- 6 「議決権の所有(被所有)割合」欄の[]内は同意している者の所有割合を外数で表示しております。
- 7 特定子会社であります。
- 8 (株)山陽レック及び(株)フラップリソースは2025年2月28日付の株式取得により、当社の連結子会社となりました。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2025年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
貴金属関連事業	1,339(70)
食品関連事業	259(16)
全社(共通)	100(6)
合計	1,698(92)

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で表示しております。
2 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

2025年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
1,186(82)	39.7	12.1	6,373

セグメントの名称	従業員数(名)
貴金属関連事業	898(64)
食品関連事業	188(12)
全社(共通)	100(6)
合計	1,186(82)

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で表示しております。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は松田産業労働組合と称し、上部団体は日本食品関連産業労働組合総連合会であり、組合員数は2025年3月31日現在888名であります。なお、労使関係は円満に推移しております。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

提出会社

当事業年度				
管理職に 占める 女性労働者 の割合(%) (注1)	男性労働者の 育児休業 取得率(%) (注2)	労働者の男女の 賃金の差異(%) (注3、4)		
		全労働者	正規雇用 労働者	パート・ 有期労働者
2.6	47	73.9	75.5	73.3

- (注) 1 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。
- 2 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
- 3 労働者の男女の賃金差異は、男性労働者の賃金に対する女性労働者の賃金の割合を記載しております。
- 4 労働者の男女の賃金差異理由及び取組につきましては、「第2[事業の状況]2[サステナビリティに関する考え方及び取組](3)人的資本」をご参照ください。

連結子会社

連結子会社は「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 経営の基本方針

当社グループは、「限りある地球資源を有効活用し、業を通じて社会に貢献する」という企業理念を持ち、貴金属などの資源リサイクルを通じて、持続可能な循環経済への移行に繋げる「貴金属関連事業」と、地球の豊かな恵みである食資源を安全・安心な品質で安定的に供給し、人の豊かさに繋げる「食品関連事業」を柱に事業展開を図っております。

当社グループは、企業理念を実践し持続的成長と企業価値の向上を図るために、経営上の基本方針として「顧客重視」「株主重視」「人間尊重」を掲げております。

(2) 経営環境及び中長期的な会社の経営戦略

経営環境

地球温暖化や生物多様性などの自然・環境問題、長期化する地政学リスク、世界的な物価上昇や経済安全保障の高まりなどが複雑に絡み合い、サプライチェーンの変化も含んで安定的な資源の生産及び確保や流通等への不確実性が高まる状況の中で、資源循環を伴ったテクノロジーの進化は、持続可能な経済及び社会の構築に向けた中長期的な期待に繋がっております。また、食料自給率に課題のある我が国においては、食資源の安定的な確保に対する重要性が一層高まっております。

このような経営環境の中で、当社グループは、テクノロジーの進化によって重要性が増している電子デバイス等に欠かすことのできない金属資源を、環境負荷低減にも繋がるリサイクルによって有効活用し、循環経済の発展に貢献してまいります。また、食の豊かさにとって必要不可欠な資源である多種・多様な食品原材料を安全・安心な品質を確保して安定的に調達及び提供し、食の豊かな社会に貢献してまいります。

当社グループでは、サプライチェーンにおけるパートナーシップの強化も行い、金属資源や食資源の有効活用によって持続可能な環境・社会・経済に貢献し、中長期的に企業価値を向上してまいります。

中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、2023年3月期からスタートし、2026年3月期までの4カ年にわたり取り組む経営戦略として、「中期経営計画（2022-2025年度）」を策定し、目指す姿としました「社会変化に適応し、進化し続ける、お客様・社会から常に必要とされる企業へ」の実現に向けて、資源の有効活用&持続可能な資源確保・お客様や社会の課題解決に資する高い付加価値の提供に取り組んでおります。

中期経営計画の3年目にあたる当連結会計年度では、貴金属関連事業の顧客である電子デバイス製造業における生産状況の回復に足踏みが見られた中で、金価格の上昇などもあり業績は改善しましたが、より競争優位性を高め、環境変化に対応した強固な収益基盤を構築することを課題として認識し、「中期経営計画（2022-2025年度）」の基本方針である、「積極投資の継続で収益基盤強化と新規収益源の創出」・「持続的成長を支え、加速させる経営基盤の強化」・「ESG経営の推進で企業価値向上」のもとで成長戦略に取り組んでまいります。

成長戦略の概要

< 収益基盤強化と新規収益源の創出 >

	貴金属関連事業	食品関連事業
ビジョン	資源循環（活用）を創造する リーディングカンパニー	お客様の商品開発の ベストパートナー
重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源リサイクルの総合力向上で差別化 ・ 環境負荷低減製商品/サービスの構築提供 ・ 高機能電子材料の開発販売促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調達網と商品ラインナップの拡充により基幹事業（原料販売）を強化
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内シェアの拡大、海外の新たな市場開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お客様のニーズを捉えた安全、安心でサステナブルな商品の開発と商流の構築
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子デバイス業界への深耕、化学/自動車業界及び二次電池/E-スクラップ市場を開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル展開の加速で販売領域を拡大
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業規模/領域の拡大に向けた技術開発と生産インフラの拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹事業を軸とし、サプライチェーン領域の拡大
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質管理体制の強化と廃棄物処理の徹底管理による安全/安心/信頼の追求 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質保証/技術支援の強化で、一貫した品質体制を構築

< 経営基盤の強化 >

持続的成長を支え、加速させる経営基盤（企業文化/人材/お客様/財務基盤/IT/ガバナンス）を強化するために、経営人材の創出、多様な人材活躍、職場環境作り、生産性の向上、DXの推進、ガバナンス・リスク管理の強化等の課題に取り組んでまいります。

（重点施策）

- a 成長を牽引する経営人材の創出
- b 適材適所で多様な人材（女性/中途/グローバル人材/シニア等）が活躍できる働き甲斐と働きやすい職場環境作り
 - ・ 挑戦機会の提供と計画的育成の推進
 - ・ キャリア開発支援の拡充
- c ITを活用したDXの推進と生産性の向上
 - ・ ERP刷新とトレンド技術の積極導入
 - ・ 自動化/省力化の推進
- d ガバナンス強化と多岐にわたるリスク管理の徹底（安全/遵法/事業リスク）
 - ・ 三線ディフェンスの強化
 - ・ グループガバナンスの強化
 - ・ デジタル社会の浸透に伴う情報セキュリティリスクへの対処

< ESG経営の推進（サステナビリティ課題への取り組み） >

当社グループでは、企業理念のもと、事業拡大を通じて循環型社会の構築や資源の安定供給等の社会課題に応え、お客様や社会に貢献しておりますが、さらなる企業価値の向上に向け、持続可能な社会の実現と事業成長の両立を目指し、取締役会が監督するサステナビリティ委員会を中心とした全社的推進体制のもと、以下のマテリアリティ（重要課題）を認識し、温室効果ガス排出量の削減、ダイバーシティ及び人権デューデリジェンスを始めとするサプライヤー管理等への取り組みを優先的に推進してまいります。

（マテリアリティ）

- a 環境負荷低減と事業成長の両立
 - ・ エネルギー消費及び温室効果ガスの排出、大気への排出、有害物質、固形廃棄物、汚染防止と資源削減、水の管理、生物多様性
- b お客様満足の向上と社会の信用確保
 - ・ 製品/サービスの正確な情報の提供、商品の安全・安心の確保
- c 多様な人材活躍による成長加速
 - ・ 適材適所、ダイバーシティ&イノベーション、ワークライフバランス

(3) 資本政策

当社グループは、「成長性を捉えた事業機会への最適資源配分、財務健全性の確保、株主還元のバランスを考慮し、持続的に企業価値を向上させる」ことを資本政策の基本方針とし、企業価値を向上させるための重要な課題として、資本収益性の向上に繋げる「将来への成長投資」と「サステナビリティ課題への取り組み」を積極的に推し進めるとともに、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて、資本効率の向上と成長期待の醸成を重要課題と捉え、ROIC経営の推進・株主還元の充実を含む資本政策的確な実行・IR活動の強化に取り組んでまいります。

将来への成長投資では、「中期経営計画（2022-2025年度）」において、収益基盤の強化・新規事業展開・脱炭素への取り組み・経営基盤の強化などに、持続的成長と企業価値向上のための経営資源配分として、4カ年累計で総額300億円規模の投資を計画し、積極的に進めております。

株主還元については、「安定且つ持続的な配当の実施」の方針のもと株主資本配当率（D0E）1.5%以上を目安とした配当の実施と、市場環境を勘案した機動的な自己株式取得等による充実を検討してまいります。

(4) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、「中期経営計画（2022-2025年度）」において、計画の最終年度となる2025年度（2026年3月期）の業績目標を連結売上高3,000億円、連結営業利益130億円、連結営業利益率4.3%、連結自己資本利益率（ROE）9.0%、連結総資産経常利益率10.0%としております。

なお、金価格の大幅な上昇などの価格的な情勢変化を背景に、2025年度（2026年3月期）の業績見通しでは、連結売上高4,900億円、連結営業利益135億円、連結営業利益率2.8%としております。

2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループは、企業理念のもと、貴金属関連事業・食品関連事業の持続的成長を通じて循環型社会の構築や資源の安定提供等の社会課題に応えるとともに、「中期経営計画（2022-2025年度）」の成長戦略に掲げた「ESG経営の推進（サステナビリティ課題への取り組み）」に注力し、持続可能な環境・社会・経済の実現と事業成長の両立を目指してまいります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) ESG経営の推進

マテリアリティ（重要課題）

当社グループは、「環境負荷低減と事業成長の両立」・「お客様満足の向上と社会の信用確保」・「多様な人材活躍による成長加速」をESG経営の推進におけるマテリアリティ（重要課題）として、温室効果ガス排出量の削減、人権デューデリジェンスを始めとするサプライヤー管理並びにダイバーシティ等への取り組みを優先的に推進しております。

ガバナンス

当社グループは、持続可能な環境・社会・経済の実現と当社グループの企業価値の向上の両立を目指すため、ESG経営の推進における重要事項の決定及び取り組みの円滑な推進を目的として、取締役会が直接監督するサステナビリティ委員会を設置しております。

サステナビリティ委員会は、取締役（社外取締役を含む）及び執行役員の中から取締役会が指名する委員で構成し、代表取締役社長が委員長を務めます。サステナビリティ委員会は、全体方針の策定・対処すべき重要事項の決定・リスクと機会に関する評価・目標の設定・行動に関する計画の策定及び体制の整備・取り組みのモニタリングを役割として、原則4回/年度の定例委員会を開催し、その内容は取締役会並びに監査等委員会に報告されます。

取締役会は、国際イニシアティブによる提言や国内外の政策等を中心とした社会情勢の動向と、当社グループの事業成長との両立を踏まえて、サステナビリティ委員会が決定した重要事項等についてプロセスを含め確認し監督しております。

なお、当事業年度開催のサステナビリティ委員会における具体的な協議内容は、取組計画の策定、温室効果ガス排出量（2023年度）の評価、環境負荷低減に関する取り組みのモニタリング、人権デューデリジェンスを含むサプライヤー管理の強化、人権方針及びガイドライン・品質環境方針等の策定並びに遵守状況の評価等であります。

リスク管理

当社グループは、事業及び企業経営に重大な影響を与えるリスクの顕在化を特定し、全社リスクとして管理することを目的として、取締役会が直接監督するT R M（トータルリスクマネジメント）委員会を設置しております。

T R M委員会は、潜在的なリスクの評価、全社リスクの一元的管理、対応の促進、管理状況のモニタリング等を実施し、その内容は取締役会並びに監査等委員会に報告されます。

リスク評価の基準は、関連する法規制や国際基準等を参照し、気候変動関連リスクについては、国際エネルギー機関「世界エネルギー展望」・I P C C「1.5 特別報告書」等を参照し、事業ごと、展開地域ごとに潜在リスクの発生確率と影響度を評価して優先的に対処すべき全社リスクを特定して事業リスクを総合的に評価し、優先順位の高いリスクへの対応方針を策定しております。

気候変動関連リスクについては、2つのシナリオ（1.5 シナリオ、4 シナリオ）を想定し、当社グループにとってのキードライバーの選定、リスクと機会の抽出、評価を行い、サステナビリティ委員会において確認の上、リスクを特定し、事業及び企業経営にとって重要と認識したリスクを管理する目的でT R M委員会に設置する専門部会において、対応等の促進及び進捗のモニタリングを行っております。

(2) 気候変動への対応（TCFD提言への取り組み）

当社グループは、「中期経営計画（2022-2025年度）」において「環境負荷低減と事業成長の両立」をサステナビリティ対応の重要課題として掲げ、特に温室効果ガスの排出量削減を重要テーマとして認識し、気候シナリオ分析や科学と整合した排出量削減目標（S B T：Science-Based Targets）の考え方に即した目標設定と目標達成に向けた取り組み内容の検討を行い、サステナビリティ委員会において協議・決定しております。

気候関連のリスクと機会の分析・評価

シナリオ	区分	キードライバー	前提条件	当社グループにとってのインプリケーション	インパクト	
1.5	政策・法規制	カーボンプライシング（炭素税、排出量取引制度等）	・国や地域における価格の上昇	-食品関連事業- ・調達コストの増大 ・調達先の変更、集約 -貴金属関連事業- ・調達コストの増大 ・販売競争力の低下	リスク	大
		CO ₂ 排出量規制の強化（省エネ法の規制強化等）	・電力へのエネルギー転換促進 ・エネルギー使用の合理化要求	-全事業共通- ・設備投資の拡大 ・技術開発費用の増大 ・調達コストの増大	リスク	中
		農地開発規制の強化 FLAGセクター（森林、土地、農業）の排出規制強化	・土地利用や転換による温室効果ガスの排出を抑制するため、多くの国で新たな一次産業エリアの開拓制限 ・国際貿易によって、最適な場所で生産された林産物、農産物の適切な配分が実現、世界全体の生産効率が向上 ・食料品の輸出規制や禁輸 ・森林破壊の一因である不正な金属鉱業に対し、植林地の開発及び採鉱事業の環境規制や社会的セーフガードのコンプライアンスが強化	-食品関連事業- ・供給量、販売量の制限 ・売上機会の減少 ・調達コストが増加	リスク	大
		廃棄物排出の規制強化	・第4次循環型社会形成基本計画（日本政府）に基づく廃棄物循環利用率の目標拡大 ・廃棄物循環利用率向上に向けた技術開発、投資の進展 ・欧州を中心にサーキュラーエコノミーの実現に向けた政策強化により、リユース、リサイクル、シェアリングによるクローズドループが多くの産業で形成される	-貴金属関連事業- ・資源リサイクルの需要拡大	機会	中
	技術	低炭素技術への移行化（低排出技術、商品・サービスの開発）	・製品と素材は利用された後、回収、リユース、リサイクルなど永続的価値を提供する循環型のビジネスモデルを反映したものになっていく ・カーボンニュートラルに向けたバイオ、廃プラ等の脱炭素に資するエネルギー源を利用した非鉄金属リサイクル促進技術の開発が進む ・長期的には、EVが普及するとともに自動車触媒の使用量は減少していく	-食品関連事業- ・売上機会の減少 -貴金属関連事業- ・自動車触媒減少に伴う売上機会の減少 -貴金属関連事業- ・リチウムイオンバッテリーが普及することによる売上機会の増加	リスク	大 機会 中

シナリオ	区分	キードライバー	前提条件	当社グループにとってのインプリケーション	インパクト
4	物 理 的 変 化	平均気温上昇 降雨パターンの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中で水不足や洪水が頻発し、21世紀末には20世紀末と比較して日本の洪水発生頻度は4倍になる ・労働生産性の低下による全労働力の減少(3℃上昇シナリオにおける総労働力の平均減少率は、アジアで25%、南北アメリカで16.7%と予想される) 	<ul style="list-style-type: none"> -貴金属関連事業- ・防災、復旧費用の増加 -食品関連事業- ・キーサプライヤーの操業低下、調達及び出荷ルート途絶 ・農産物、水産物、畜産物の収量が減少 -全事業共通- ・労働生産性の低下を補うための人件費の増加(20%の生産性低下に対し120%増員の必要性) ・気温上昇に伴う光熱費の増加 	リスク 大
		海面上昇	<ul style="list-style-type: none"> ・0.5mの海面上昇により津波ハザードが2倍になる(2030年までに高波の頻度は年間7日～15日、2050年までに25日～75日に増加) ・食糧システムについては、ある年に5%を超える穀物収量減少のリスクは、2050年までにアジアでは現在の1.4倍、世界では1.9倍になる ・アジアにおいては2050年までにバイオーム(生物群)の移動が予想される土地面積の割合は40%である(グローバルでは45%) 	<ul style="list-style-type: none"> -全事業共通- ・防災、復旧費用の増加 ・顧客拠点の移転 -食品関連事業- ・農地の減少、生息域確保の困難化 ・農作物の収量減少、食糧資源確保の困難化 ・売上減少 -貴金属関連事業- ・海外由来売上10%減少 	リスク 大

指標と目標

当社グループを対象とする温室効果ガス排出量削減の目標を以下のとおり設定しております。

温室効果ガス排出量実績及び削減目標

(単位：t-CO₂/年)

	2020年度 (基準年度)	2023年度	2030年度 (短期目標)	2050年度 (長期目標)
Scope 1 + 2	21,236	19,024	12,292 (2020年度比42%削減)	カーボンニュートラル実現
Scope 3	1,013,001	862,283	757,939 (2020年度比25%削減)	

2030年度(短期目標)は、SBT認定を取得しております。

削減に向けた主な対策

- ・エネルギー使用効率の削減
- ・再生可能エネルギーの導入拡大
- ・製造及び処理プロセスの見直し、改善(燃料転換、CO₂回収含む)
- ・高効率設備の導入、更新
- ・物流効率化、モーダルシフト
- ・環境負荷低減製商品/サービスの提供
- ・サプライチェーンとのエンゲージメントを通じた協働

(3) 人的資本

当社グループは、次代に向けた目指す姿として「社会の変化に適応し、進化し続ける、お客様・社会から常に必要とされる企業へ」を掲げ、その実現のために不可欠である人的資本経営に取り組んでおります。

当社グループは「人間尊重」・「人間の能力は無限である」を理念に置き、「人間なくして企業なし」という当社独自の原則を大切に考え、多様な人材が生き活きと働き、個々の能力を最大限に引き出し、個人と組織がともに成長し続ける企業を目指して取り組んでいます。

当社グループの人的資本経営では、持続的な成長を支える「経営人材」や「リーダーシップ人材」の育成を重要課題と位置づけ、計画的な人材育成プログラムを実施することによって、変化の激しい経営環境においても柔軟かつ迅速に対応できる体制の構築に取り組んでおります。

また、従業員一人ひとりがその能力を最大限に発揮できる環境の整備に注力し、性別、年齢、国籍、職務経験などの違いを尊重しながら、すべての人材が公平に活躍できる職場環境の構築を進めております。

さらに、人材の成長を支援するため、キャリア開発及びスキル向上を目的とした研修プログラムや教育制度を充実させるとともに、働きがいのある職場づくりを目指して、柔軟な働き方の導入や健康経営の推進にも取り組んでいます。

ガバナンス及びリスク管理

当社グループの人的資本経営を不可欠とするリスク認識は、「人間なくして企業なし」であり、人材の確保、配置及び育成それぞれの課題に対し、人事部門による分析のもとで取締役会を中心に定期的な議論を重ね、適切な対応策の検討及び実施を進めております。

また、すべての従業員の人権を守るために、「松田産業グループ人権方針」を定め周知徹底するとともに、あらゆるハラスメントの防止に向けた通報窓口を設置し、体制を整備しております。

戦略

イ 人材育成方針

当社グループは、「中期経営計画（2022-2025年度）」の成長戦略に基づき、変化の激しい経営環境においても持続的に収益を確保し、企業価値を向上させるための人材として、中長期的視野及び全体最適思考を備えた「経営人材」と、事業の基盤を支える「営業」「生産／技術」「物流」「管理／システム」の4つの機能を組織横断的に連携させ強化することができる「リーダーシップ人材」の育成に注力し、計画的かつ持続的に「人材への投資」を拡大して、従業員一人ひとりが能力を最大限に発揮できる環境の整備を推進しております。また、これらの取り組みを通じて、当社グループ全体の競争力を高め、持続的成長を実現することを目指しております。

< 経営人材の育成と組織マネジメント力の向上 >

当社グループでは、将来を担う経営人材の持続的な育成に向けて、候補人材の層を厚くするための計画的な取り組みを進めております。

具体的には、選抜形式の研修を実施し、各階層に応じた能力開発を行うとともに、組織マネジメント力を向上させるため、管理職及び管理職候補者を対象に、早期の段階から必要な知識とスキルを習得するためのMBA通信教育を提供しております。

また、「経営人材」の現状や充足度合を把握分析し、計画的な分析に向けて人材要件の可視化、サクセッションプランの体系化、タレントマネジメントシステムの設計・導入にも取り組んでいます。

< リーダーシップ人材の育成と組織横断的な連携強化 >

当社では、事業の根幹を支える「営業」「生産／技術」「物流」「管理／システム」の4つの機能を連携させ、部門を超えて推進力を発揮することができる人材を「リーダーシップ人材」と定義し、その育成に注力しております。

「リーダーシップ人材」の育成では、組織を跨いだプロジェクトを推進しマネジメント能力を発揮するための研修を行うとともに、並行して、部門横断的な経験を積むための実践機会を提供しております。

< グローバル人材の育成 >

当社グループでは、「経営人材」や「リーダーシップ人材」の育成に加え、サプライチェーンを最適化し、海

外事業の継続的な成長を実現するために重要となる「グローバル人材」の育成に注力しております。

当社並びに海外現地法人の双方を深く理解しグローバルな視点で活躍できる人材の確保に向けて、管理系部門の人材を対象に、一定期間海外での実務経験を積む機会を提供する独自の海外インターンシップを開始し、現地国の文化やビジネス環境を実際に体験して理解することによってグローバルな視点を持つ人材の育成に取り組んでおります。

また、海外現地法人スタッフの増加に伴い、グループ全体が目指す姿に向けて方向性を共有しながら事業を推進できるよう、理念の浸透にも注力しております。

ロ 環境整備方針

当社グループは、従業員一人ひとりがその能力を最大限に発揮できる環境の整備に取り組んでおります。多様な人材が活躍できる職場環境を構築することで、人材の成長を促進するとともに、企業の持続的な発展を実現することを目指しております。

< 社員の自律的なキャリア開発支援 >

当社では、変化の激しい時代において、従業員一人ひとりが自律的にキャリア開発を行い、能力を向上させることが重要であると認識しています。この考えのもと、従業員が自身のキャリアを主体的に設計し、成長を続けられるよう、年代別に「キャリア研修」を実施しています。

< 多様な人材活躍による成長加速 >

当社グループでは、「多様な人材活躍による成長加速」をサステナビリティ経営におけるマテリアリティ（重要課題）の一つに掲げ、「女性」「経験者」「グローバル人材」「シニア」などの様々なバックグラウンドやスキルを持った多様な人材が活躍することで組織の成長を加速させるよう、各種の取り組みを推進しております。

さらには、価値観や考え方の多様性（深層的なダイバーシティ）にも対応し、組織の機能を強化するための施策を進めております。

< 職場環境づくりへの取り組み >

当社では、すべての従業員が、時間を最大限有効活用し、個々の能力を最大限に発揮できる環境を整備するために、柔軟で多様な働き方を追求し、テレワークの活用をはじめとした勤務制度の拡充を進めております。また、あらゆるハラスメントの根絶のための取り組みを推進するとともに、これらの制度を利用しやすい職場風土の醸成に努めております。

< 健康経営に関する取り組み >

当社は、従業員の健康管理を戦略的に実践することが、従業員の生産性や活力向上を通じた組織の活性化によって、業績及び企業価値の向上に結び付くと考えております。

この考えのもと、2021年度に「健康宣言」を制定し、従業員一人ひとりが健康で生き活きと業務に取り組むことができる環境づくりを推進しております。

からだの健康

35歳以上の従業員に対しては、会社補助の下、人間ドックの受診を推奨しております。女性に対しては、女性特有の病気への検診について会社補助を実施し、様々な病気の早期発見・早期治療に繋げております。

こころの健康

全ての従業員に対して、個人別ストレスチェックを実施し、集団分析を通じて職場環境の課題を可視化し、改善に繋げています。また、EAPサービス（従業員支援プログラム「心身の健康に関する相談窓口」）を設置し、一人一人の悩みに対し、専門的かつきめ細かな対応を行う体制を整備しております。

この取り組みを進めた結果、2022年に経済産業省が認定する「健康経営優良法人（大規模法人部門）」を取得し、以降も認定取得を継続しております。これらの施策に加え、「社員を支える家族も従業員同様に大切である」という考えから、福利厚生として保険料全額会社負担にて生命保険に加入しております。

今後も、全ての従業員が心身共に健康を保ちながら活躍できる環境を整備し、健康経営を通じて持続的な成長を目指してまいります。

指標及び目標

上記の進捗を図る主な指標は次のとおりです。

指標	実績 (当事業年度)	目標/前事業年度実績(注)1
女性採用比率(注)2	24.7%	2026年3月末目標： 20.0%以上
男女平均勤続年数差異(注)3	69.3%	2026年3月末目標： 70.0%以上
女性管理職比率(注)2	2.60%	2024年3月期実績： 1.6%
男女賃金差異(注)4	73.90%	2024年3月期実績： 72.8%
男性育児休業取得率(注)5	47%	2024年3月期実績： 41%

- (注)1 目標を設定している非財務指標KPIは、目標/前事業年度実績欄に目標を記載しております。
- 2 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出しております。
- 3 男性の平均勤続年数に対する女性の平均勤続年数の差異：女性の平均継続勤務年数/男性の平均継続勤務年数×100(%)
- 4 労働者の男女の賃金差異は、男性労働者の賃金に対する女性労働者の賃金の割合を記載しております。同一等級内において男女間の賃金差は存在しないことを確認しております。女性管理職比率の増加を推進することで、全体としての男女間の賃金格差がさらに縮小すると考えております。今後も、性別に関わらず公平な評価と処遇を実現するための取り組みを継続してまいります。
- 5 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出しております。

3 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。当社グループは、以下に記載のリスクマネジメント体制の下で、リスク発生の回避及びリスク発生時の影響の極小化に努めております。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) リスクマネジメント体制

当社は、当社グループの事業活動等に関する各種のリスクを管理し所管する組織として、TRM（トータルリスクマネジメント）委員会を設置し、リスク管理体制の構築・運用及び評価・教育及び訓練等を行い、その結果を取締役に報告しております。TRM（トータルリスクマネジメント）委員会では、リスクの認識について発生頻度・経済的損失影響度・検知度の各要素をそれぞれ5段階で評価し、評価結果の乗数をリスク度評価として定量化し、重要なリスクを識別しております。

(2) 事業等の主要なリスク

主要製品・商品の価格変動

当社グループの貴金属関連事業が取り扱う製品の生産に用いられる主要原材料は、主に金、銀、白金、パラジウム等の貴金属元素を含有するリサイクル原材料であり、その仕入価格及び販売価格は原則として貴金属地金の市場価格に基づいており、国際商品市況及び為替相場の変動による影響を受けております。当社グループは、価格変動に伴う相場リスクを回避する目的で商品先渡取引を行っておりますが、全量に対する回避は困難であるため、製造及び在庫期間における貴金属価格の動向によっては、価格変動が業績に影響を与える可能性があります。当社グループの食品関連事業が取り扱う商品である水産品、畜産品、農産品等の食品加工原材料は、取扱品の大部分が外国産品であり、その価格は、仕入・販売いずれも商品市況、為替相場の変動による影響を受けます。当社グループは、先物為替予約を行い、販売価格への転嫁によりこれらの変動に対応しておりますが、商品の需給バランス等により販売価格が下落した場合は、棚卸資産の評価損等の損失が発生する可能性があり、業績に影響を与える可能性があります。

食品関連事業に関わる品質問題等

当社グループの食品関連事業は、すりみ、エビ、イカ、カニ、タコ等を中心とした水産品加工原料、生鮮野菜、乾燥野菜、冷凍野菜等を中心とした農産品加工原料、鶏肉、豚肉、牛肉等の各種素材肉、鶏卵を中心とした畜産品加工原料を輸入し、水産練製品、冷凍食品、食肉加工、惣菜、製菓等の食品メーカー等へ販売しております。当社グループでは、法令に基づく食品表示の徹底はもとより、海外産地の品質管理指導や異物混入対策の強化などに万全を尽くしておりますが、食品の安全性等に係る問題が発生し、輸入禁止措置等がとられた場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

法的規制

環境問題についての社会的関心の高まりから、環境関連の法的規制は強化される方向にあります。当社グループの貴金属関連事業に関連する法的規制が強化された場合においては、それに対処するために、追加の設備投資負担が必要になることがあります。また、当社及び当社グループの一部は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく事業者として、産業廃棄物の収集運搬、処理等の事業を行っており、各種法令の遵守が事業継続の大前提となっております。当社グループでは、事業活動及びその他の社会的活動における最高位の社内基準として「松田産業グループ グローバル行動規範」を制定するとともに、コンプライアンスの実現のための取扱いを定めた「コンプライアンス規程」を制定し、経営活動全般にわたるコンプライアンスの実現に取り組んでおります。

廃棄物等の管理

当社グループでは、製造過程において毒物や劇物を使用しており、廃液や大気への排出物に対して、環境に配慮した適切な処理を行っております。しかしながら、工場の事故等により、これらの管理に何らかの問題が生じた場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

カントリーリスク

当社グループは、貴金属関連事業・食品関連事業ともに、海外の様々な国や地域において事業活動を行っており、これらの国や地域の政治・経済・社会情勢等の環境変化に起因し予期せぬ事態が生じた場合には、業績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

自然災害・気候変動等

当社グループが事業活動を行う国や地域において、地震・洪水等の自然災害が発生した場合には、当社グループの事業活動に影響を与える可能性があります。当社グループでは、大規模災害の発生に備え、安否確認システムの導入、防災訓練の実施及び事業継続のための各種対策を講じておりますが、被害を完全に回避できるものではなく、業績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。また、気候変動等による異常気象が発生した場合には、当社グループの食品関連事業が取り扱う商品の生産等に影響する可能性があります。また、業績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。併せて、自然災害等の大規模災害発生時に備え、製商品及び役務の供給体制の整備を進めておりますが、調達の遅延や事業活動の停滞・停止が発生した場合には、業績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

情報セキュリティ

当社グループが行う事業活動の多くは、コンピュータシステム及び通信ネットワークを利用しており、コンピュータシステム及び通信ネットワークに生じる障害や不具合・欠陥や、データセンターの機能停止などにより、事業活動に支障が出る可能性があります。また、顧客情報ははじめとする各種の個人情報がサイバー攻撃を含む不測の事態により遺漏が発生した場合は、社会的信頼の失墜や多額の費用負担が生じる可能性があります。当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

部材の調達

当社グループは、製品の安定供給に向けて、製造に必要な部材の調達では複数の供給元を確保するなどの対策を講じていますが、一部の部材は限られたサプライヤーから調達しています。これらの部材の供給が滞った場合や、代替供給先からの調達が困難となった場合、製品の生産遅延やコストの増加を招き、お客様への製品の提供が遅れ、納期遅延や収益性が悪化する可能性があります。当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

知的財産

当社グループは、事業活動遂行のため、自社技術を保護するために特許等の知的財産を取得していますが、意図しない知的財産権の侵害が発生する可能性があります。第三者からの訴訟を提起されるリスクがあります。また、当社の特許が競合他社の技術に対して十分な保護を提供できない場合や、当社の製品・サービスの販売差し止めが命じられた場合、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態の状況

当連結会計年度の資産合計は、前連結会計年度末に比べ19,962百万円増加し、168,900百万円となりました。

当連結会計年度の負債合計は、前連結会計年度末に比べ11,203百万円増加し、68,765百万円となりました。

当連結会計年度の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ8,759百万円増加し、100,134百万円となりました。

経営成績の状況

当連結会計年度における我が国経済は、雇用や所得環境が改善するもとで、インバウンド需要の増加により景気は緩やかな回復が見られましたが、世界的な物価上昇の継続や中国経済の景気停滞、米国の通商政策による影響や地政学リスクの高まりもあり、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような状況の中で、当社グループの貴金属関連事業においては、資源リサイクルの総合力及び高機能電子材料の開発などによる差別化のもとで、国内外における生産拠点の整備・拡充、貴金属原料の確保、高機能電子材料などの製商品販売及び産業廃棄物処理受託の拡大に取り組みました。また、食品関連事業においては、グローバルに展開する調達力を活かして、顧客ニーズに応えた商品の開拓と安全安心な商品の安定供給により、販売量の拡大に取り組みました。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は468,841百万円（前連結会計年度比30.0%増）、営業利益は12,676百万円（前連結会計年度比35.5%増）、経常利益は13,523百万円（前連結会計年度比28.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は9,456百万円（前連結会計年度比29.8%増）となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりであります。

（貴金属関連事業）

当事業の主力顧客であるエレクトロニクス業界の電子デバイス分野は、スマートフォンや自動車向けの回復が見られない中、生成AI向けのデータセンター関連の需要拡大は継続したものの、半導体・電子部品等の本格的な生産回復には至りませんでした。

このような状況の中で、当事業においては、金相場が堅調に推移したことから、宝飾分野を含めた貴金属リサイクル取扱量の増加に努め、売上高及び営業利益は前連結会計年度に比べ増加しました。

これらの結果、当該事業の売上高は361,655百万円（前連結会計年度比43.0%増）、営業利益は10,178百万円（前連結会計年度比44.5%増）となりました。

（食品関連事業）

当事業の主力顧客である食品製造業界は、インバウンド需要の拡大はあったものの、物価上昇が消費マインドを押し下げ、個人消費には足踏みが見られ、継続的な原材料価格や物流コストの高止まりなども重なり、不安定な市場環境となりました。

このような状況の中で、当事業においては、水産品の販売量は増加しましたが、畜産品、農産品の販売量は減少し、商品構成の変化から一部に販売価格の下落も見られたことから売上高は前連結会計年度に比べ減少しました。また、営業利益につきましては、在庫回転率の向上によるコストの適正化などにも努めた結果、前連結会計年度に比べ増加しました。

これらの結果、当該事業の売上高は107,221百万円（前連結会計年度比0.4%減）、営業利益は2,497百万円（前連結会計年度比8.0%増）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は11,428百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,020百万円の減少となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における営業活動により増加した資金は2,542百万円となりました。これは主として税金等調整前当期純利益、減価償却費並びに仕入債務の増加による資金の増加と、売上債権、棚卸資産の増加及び法人税等の支払いによる資金の減少との差引によるものです。なお、前連結会計年度の1,833百万円の資金の増加に比べ709百万円増加しました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における投資活動に使用した資金は6,243百万円となりました。これは主として工場設備新設などの有形固定資産及びソフトウェア等の無形固定資産、並びに子会社株式の取得によるものです。なお、前連結会計年度の7,956百万円の支出に比べ1,712百万円の支出が減少しました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における財務活動により増加した資金は210百万円となりました。これは主として長期借入金の増加による資金の増加と、短期借入金の返済、配当金の支払いによる資金の減少との差引によるものです。なお、前連結会計年度の8,084百万円の資金の増加に比べ7,874百万円減少しました。

（参考） キャッシュ・フロー関連指標の推移

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	2021年 3 月	2022年 3 月	2023年 3 月	2024年 3 月	2025年 3 月
自己資本比率（注）1	62.8	64.2	65.4	61.2	59.1
時価ベースの自己資本比率 （注）2	50.9	55.8	45.8	43.5	53.3
キャッシュ・フロー対有利子 負債比率（注）3	93.2	2.3	1.8	16.0	13.1
インタレスト・カバレッジ・ レシオ（注）4	2.6	106.4	55.6	12.2	6.8

（注） 1 自己資本比率：自己資本/総資産

2 時価ベースの自己資本比率：株式時価総額/総資産

3 キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債/営業キャッシュ・フロー

4 インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー/利払い

各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

株式時価総額は、自己株式を除く発行済株式数をベースに算出しております。

キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

生産、受注及び販売の実績

(生産実績)

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
貴金属関連事業		
製品	357,219	143.5
処理	5,241	102.7

- (注) 1 当社グループにおける生産活動は、貴金属関連事業においてのみ行われております。
2 金額は、販売価格によっております。

(仕入実績)

当連結会計年度における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(百万円)	前年同期比(%)
貴金属関連事業	66,556	229.1
食品関連事業	92,365	104.3
合計	158,921	135.2

- (注) 1 金額は、仕入価格によっております。
2 当連結会計年度において、貴金属関連事業における仕入実績に著しい変動がありました。
これは、金地金の仕入増加及び金価格の上昇等によるものです。

(受注実績)

見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

(販売実績)

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
貴金属関連事業	361,655	143.0
食品関連事業	107,185	99.6
合計	468,841	130.0

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
(注) 2 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
三井物産株式会社	60,876	16.9	79,849	17.0
三菱商事RtMジャパン株式会社	-	-	53,027	11.3

- (注) 前連結会計年度の三菱商事RtMジャパン株式会社に対する販売実績は、当該販売実績の総販売実績に対する割合が100分の10未満のため、記載を省略しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり重要となる会計方針につきましては、「第一部〔企業情報〕 第5〔経理の状況〕 1〔連結財務諸表等〕〔注記事項〕（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）」に記載のとおりですが、決算日における資産・負債の報告数値、報告期間における収益・費用の報告数値に影響を与える見積りは、主に退職給付会計、賞与引当金、税効果会計、貸倒引当金、減損会計、棚卸資産の評価であり、継続して評価を行っております。

また、連結財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定のうち、重要なものは、「第一部〔企業情報〕 第5〔経理の状況〕 1〔連結財務諸表等〕〔注記事項〕（重要な会計上の見積り）」に記載しております。

なお、見積り及び判断・評価につきましては、過去実績や状況に応じて合理的と考えられる要因等に基づき行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

当連結会計年度の財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

イ 財政状態の分析

a 資産の部

流動資産は、受取手形及び売掛金が2,098百万円、棚卸資産が12,611百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ13,823百万円増加しました。固定資産は、工場設備の新設及び更新などで有形固定資産が3,522百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ6,138百万円増加しました。これらの結果、当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ19,962百万円増加し、168,900百万円となりました。

b 負債の部

流動負債は、買掛金が3,778百万円、未払法人税等が2,155百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ4,097百万円増加しました。固定負債は、長期借入金が7,026百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ7,106百万円増加しました。これらの結果、当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ11,203百万円増加し、68,765百万円となりました。

c 純資産の部

純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益が9,456百万円と、配当金の支払い11,684百万円等の差引による利益剰余金は7,771百万円増加しました。これらの結果、前連結会計年度末に比べ8,759百万円増加し、100,134百万円となりました。

□ 経営成績の分析

a 売上高

当連結会計年度における売上高は468,841百万円（前連結会計年度比30.0%増）となり、前連結会計年度に比べ108,313百万円増加しました。セグメント別の売上高につきましては、「第一部〔企業情報〕 第2〔事業の状況〕 4〔経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析〕 (1)経営成績等の状況の概要 経営成績の状況」に記載のとおりですが、主要な分析は以下のとおりであります。

（貴金属関連事業）

金製品の売上高は、前連結会計年度に比べ103,133百万円増加し、274,834百万円（前連結会計年度比60.1%増）となり、売上単価は前連結会計年度に比べ37.4%上昇しました。

銀製品の売上高は、前連結会計年度に比べ8,864百万円増加し、25,053百万円（前連結会計年度比54.8%増）となり、売上単価は前連結会計年度に比べ36.2%上昇しました。

白金族製品の売上高は、前連結会計年度に比べ2,552百万円減少し、41,752百万円（前連結会計年度比5.8%減）となり、売上単価は前連結会計年度に比べ6.1%下落しました。

（食品関連事業）

水産品の売上高は、前連結会計年度に比べ4,525百万円増加し、43,435百万円（前連結会計年度比11.6%増）となり、売上単価は前連結会計年度に比べ1.7%下落しました。

畜産品の売上高は、前連結会計年度に比べ3,527百万円減少し、42,936百万円（前連結会計年度比7.6%減）となり、売上単価は前連結会計年度に比べ3.3%下落しました。

農産品の売上高は、前連結会計年度に比べ425百万円減少し、13,549百万円（前連結会計年度比3.0%減）となり、売上単価は前連結会計年度に比べ3.6%上昇しました。

b 売上総利益

当連結会計年度における売上総利益は35,202百万円（前連結会計年度比17.0%増）となり、前連結会計年度に比べ5,122百万円増加しました。売上総利益率は7.5%となり前連結会計年度比0.8ポイント低下しましたが、この主な要因は、金相場の上昇や宝飾分野からの貴金属リサイクル取扱量の増加などにより売上総利益率の低下したことが要因です。

c 営業利益

当連結会計年度における営業利益は12,676百万円（前連結会計年度比35.5%増）となり、前連結会計年度に比べ3,320百万円増加しました。営業利益率は2.7%となり前連結会計年度比0.1ポイント上昇しましたが、この主な要因は、売上総利益率が0.8ポイント低下した一方で、金相場の上昇等による売上高の上昇に対して販売費及び一般管理費の割合が0.9ポイント低下したことの差し引きによるものです。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性についての分析

イ キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析につきましては、「第一部〔企業情報〕 第2〔事業の状況〕 4〔経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析〕(1)経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

ロ 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、貴金属関連事業におけるリサイクル原材料及び食品関連事業における食品加工原材料の仕入れ等の事業運営上必要となる資金の確保に加え、急激な環境変化にも備え流動性を維持する考えの下で、運転資金については営業活動により獲得したキャッシュ・フロー及び金融機関からの短期借入を、設備投資については営業活動により獲得したキャッシュ・フロー及び金融機関からの長期借入を基本としております。なお、当社は資金調達の機動性を高めるため、株式会社みずほ銀行をアレンジャーとする計4行の金融機関との間に3,000百万円の借入枠（コミットメントライン）を設定しております。

当連結会計年度末における有利子負債の残高は、前連結会計年度末に比べ3,967百万円増加し33,372百万円となりました。売上高の増加等に伴う資金の需要増大に対し流動性の確保を図るとともに、資金調達コストの低減にも努め、金利変動リスクに対してもヘッジ手段として金利スワップ等を活用しております。「第一部〔企業情報〕 第3〔設備の状況〕 3〔設備の新設、除却等の計画〕（1）重要な設備の新設等」に記載の設備投資につきまして、必要資金は営業活動により獲得したキャッシュ・フロー及び金融機関からの長期借入により賄う予定であります。

経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

「第一部〔企業情報〕 第2〔事業の状況〕 1〔経営方針、経営環境及び対処すべき課題等〕(4)経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等」に記載のとおり、「中期経営計画（2022 - 2025年度）」では、計画の最終年度となる2025年度（2026年3月期）の業績目標を連結売上高3,000億円、連結営業利益130億円、連結営業利益率4.3%、連結自己資本利益率（ROE）9.0%、総資産経常利益率10.0%としております。

なお、「中期経営計画（2022年-2025年度）」の3年目となる当連結会計年度では、世界的な物価上昇の継続、米国通商政策による影響や地政学リスクの懸念等、先行き不透明な状況が続いていることから、経営上の指標とする業績目標は変更しておりません。

また、金価格の大幅な上昇などの価格的な情勢変化を背景に、2025年度（2026年3月期）の業績見通しでは、連結売上高4,900億円、連結営業利益135億円、連結営業利益率2.8%としております。

5 【重要な契約等】

(1) 仕入の提携

契約会社	相手先名	提携内容	契約期限
松田産業株式会社	日鉄マイクロメタル株式会社	ボンディングワイヤ及びマイクロボールの販売代理店契約	2026年3月31日 (以後1年毎自動更新)

6 【研究開発活動】

当社グループにおける研究開発活動は、永年培ってきた貴金属製錬技術・産業廃棄物処理技術・精密洗浄技術・めっき薬品製造技術を基礎に「資源の有効活用」・「環境保全」・「高純度」・「高性能」をテーマとし、広く社会に貢献することを理念として、長期的視野に立った活動を推進しております。従いまして、当社グループにおける研究開発活動は、当社の貴金属関連事業を中心に行われております。

- a 半導体・電子部品業界や宝飾品業界など幅広い分野より発生する貴金属含有スクラップに対し、濃縮・分離といった操作により効率良く貴金属を回収し、随伴する非鉄金属等も可能な限り有効活用する技術開発、環境規制が強化されている硝酸を用いない手法の開発など地球環境に配慮した貴金属製錬技術開発、高純度製品製造技術開発などに注力しております。
 - b 製品性能の向上に伴い複雑化する半導体・電子部品製造工程で使用される特殊合金の洗浄・剥離技術開発を行い新規設備の導入を行っております。
 - c 半導体・電子部品の高性能化、信頼性向上に貢献する貴金属関連めっき薬品の製品開発を行っております。また、半導体製造プロセスにおいて真空蒸着やスパッタリングに用いられる高純度貴金属加工品の開発を進めております。
 - d 「資源循環」に主眼を置き、廃棄物中の有用物を資源として再利用する技術、並びに変化する廃棄物の処理難易度や厳格化する環境規制に対応した無害化処理技術の開発に鋭意取り組んでおります。
- その他サンプリング技術及び分析の精度向上を探索しております。

(研究テーマ)

- 1 貴金属リサイクル技術の研究
- 2 貴金属関連めっき薬品及び貴金属化成品製造技術の研究
- 3 貴金属高純度加工品製造技術の研究
- 4 半導体製造装置の洗浄及びメンテナンス技術の研究
- 5 産業廃棄物のリサイクル技術の研究
- 6 産業廃棄物の無害化処理技術の研究
- 7 上記の研究を支える分析・解析技術の向上

また、これらの研究開発活動は一部社外の研究機関と共同で行い、早期に成果に結び付けられるよう推進しております。

(当連結会計年度の主な研究開発成果)

- ・ 貴金属回収技術の開発・改善を行い、効率向上と環境負荷低減に寄与いたしました。
- ・ 顧客ニーズに対応した貴金属含有めっき薬品や高純度真空蒸着材の製品開発を進め、一部導入されました。
- ・ 資源循環のための技術開発として、将来排出増加が見込まれるリチウムイオン電池のリサイクル・リユース技術の開発を推進しました。
- ・ カーボンニュートラルに向け、資源循環におけるGHG削減技術の開発を推進しました。

なお、当連結会計年度の研究開発費は397百万円であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、当連結会計年度は、生産体制の拡充や生産設備の維持増強を図るための工場設備の新設並びに更新等に総額4,301百万円の設備投資を行いました。なお、有形固定資産の他、ソフトウェア等の無形固定資産への投資を含めて記載しております。

当連結会計年度の主要な設備投資は、貴金属関連事業において、生産体制の拡充や生産設備の維持増強を図るための工場設備の新設並びに更新等に総額4,145百万円の投資を実施致しました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2025年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
本社及び分室 (東京都新宿区)	貴金属関連事業 食品関連事業 全社共通	本社機能 設備他	205	137			261	605	289 (18)
武蔵工場・武蔵第2 工場及び武蔵第3工 場及び武蔵第4工場 (埼玉県入間市)	貴金属関連事業	営業設備・ 生産設備他	5,169	2,130	10,114 (50,592) [2,940]	11	124	17,550	186 (23)
入間工場・入間第2 工場及び開発セン ター (埼玉県入間市)	貴金属関連事業	研究開発・ 生産設備他	141	141	1,815 (11,787) [20,632]	12	1,223	3,334	246 (15)
関工場・関第二工場 (岐阜県関市)	貴金属関連事業	生産設備他	1,610	497	802 (39,956) [2,422]	46	163	3,120	115 (7)
狭山事業場 (埼玉県狭山市他)	貴金属関連事業	営業設備他	212	1	680 (6,709) [6,473]	148	3	1,047	79 (7)
仙台営業所 (仙台市宮城野区)	貴金属関連事業 食品関連事業	営業設備他	499	0	660 (6,517)	7	3	1,172	29 (3)
名古屋営業所 (愛知県小牧市他)	貴金属関連事業 食品関連事業	営業設備他	8	0	222 (955) [2,965]	0	1	233	25 (3)
大阪営業所 (大阪市西淀川区他)	貴金属関連事業 食品関連事業	営業設備他	16	0	[5,803]	40	4	62	74 (-)
福岡営業所 (福岡市東区)	貴金属関連事業 食品関連事業	営業設備他	0	0	[1,075]	1	1	3	23 (2)
北九州工場 (北九州市若松区)	貴金属関連事業	営業設備・ 生産設備他	2,367	9	1,380 (59,836)	8	4	3,770	11 (-)
その他の営業所・出 張所 (横浜市緑区他)	貴金属関連事業 食品関連事業 全社共通	営業設備他	38	18	129 (17,973) [10,236]	28	21	235	109 (4)
合計			10,270	2,937	15,806 (194,326) [52,549]	306	1,814	31,136	1,186 (82)

(2) 国内子会社

2025年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
マツダ流通(株) (川崎市川崎区)	食品関連事業	営業設備他	0	0		46	2	50	39 (4)
日本メディカル テクノロジー(株) (東京都練馬区)	貴金属関連事業	営業設備他	1			34	0	36	53 (2)
北海道アオキ化学(株) (札幌市白石区)	貴金属関連事業	営業設備他	8	0	[1,023]	20	0	29	16 (1)
ゼロ・ジャパン(株) (東京都北区)	貴金属関連事業	営業設備他	3	9			0	12	5 (2)
ガルフ食品(株) (東京都中央区)	食品関連事業	営業設備他	0			1	0	2	4 (-)
(株)山陽レック (広島県広島市安佐北 区)	貴金属関連事業	営業設備・ 生産設備他	611	782	211 (14,034) [3,059]		4	1,610	35 (-)
(株)フラップリソース (広島県広島市安佐北 区)	貴金属関連事業	営業設備・ 生産設備他	32	2	35 (3,279) [247]		0	71	5 (1)

(3) 在外子会社

2025年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
Matsuda Sangyo (Thailand)Co.,Ltd. (タイ)	貴金属関連事業	営業設備・ 生産設備他	1,108	737	371 (37,704)	97	481	2,797	158 (-)
Matsuda Sangyo (Philippines) Corporation (フィリピン)	貴金属関連事業	営業設備他	101	56			2	160	28 (-)
Matsuda Sangyo (Singapore)Pte.Ltd. (シンガポール)	貴金属関連事業	営業設備他		40		13	29	83	13 (-)
Matsuda Sangyo (Malaysia)Sdn.Bhd. (マレーシア)	貴金属関連事業	営業設備・ 生産設備他	240	43	541 (20,032)		24	850	38 (-)
Matsuda Sangyo Trading(Qingdao) Co.,Ltd. (中国)	食品関連事業	営業設備他				40	0	40	8 (-)
Matsuda Sangyo Trading(Thailand) Co.,Ltd. (タイ)	食品関連事業	営業設備他					7	7	10 (-)
South Gate Realty Holding Inc. (フィリピン)	貴金属関連事業	営業設備他			60 (4,545)			60	(-)
Matsuda Sangyo (Vietnam)Co.,Ltd. (ベトナム)	貴金属関連事業	営業設備・ 生産設備他	421	168			26	616	48 (-)
Matsuda Sangyo Trading(Vietnam) Co.,Ltd. (ベトナム)	食品関連事業	営業設備他							5 (-)
Matsuda Sangyo (Taiwan)Co.,Ltd. (中華民国)	貴金属関連事業	営業設備・ 生産設備他	77	112		97	0	287	36 (-)
Matsuda Sangyo (Korea)Co.,Ltd. (大韓民国)	貴金属関連事業	営業設備他					1	1	2 (-)

Matsuda Sangyo Trading India Private Limited (インド)	食品関連事業	営業設備他					0	0	3 (-)
PT Matsuda Sangyo Trading Indonesia (インドネシア)	食品関連事業	営業設備他		1				1	2 (-)
SEAM Holdings (Thailand)Co.,Ltd. (タイ)	貴金属関連事業	営業設備他					0	0	4 (-)

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品並びに建設仮勘定の合計であります。
2 土地及び建物の一部を賃借しており、年間賃借料は903百万円であります。
3 賃借している土地の面積については、[]内に外数で表示しております。
4 建物の一部を賃貸しており、年間賃貸料は14百万円であります。
5 現在休止中の主要な設備はありません。
6 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で表示しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

所在地	設備の内容	投資予定金額		引渡し完了 予定年月	資金調達方法	完成後の 増加能力
		総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
本社	ソフトウェア	1,995	1,490	2025年12月	自己資金及び 銀行借入	
埼玉県 入間市	事務所棟他	5,370	3,100	2026年 8 月	自己資金及び 銀行借入	
	生産設備等	930	150	2026年 8 月	自己資金及び 銀行借入	(注) 2

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 主にヤード設備、前処理設備の新設及び移設であるため、完成後の増加能力は記載しておりません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2025年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2025年6月24日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	26,908,581	26,908,581	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株であります。
計	26,908,581	26,908,581		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年8月22日 (注)	2,000,000	26,908,581		3,559		4,008

(注) 2022年8月10日開催の取締役会決議により、2022年8月22日付で自己株式の消却を行い、発行済株式総数が2,000,000株減少しております。

(5) 【所有者別状況】

2025年3月31日現在

2023年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	19	29	145	151	23	15,117	15,484	-
所有株式数(単元)	-	62,848	3,315	64,002	32,117	11	106,196	268,489	59,681
所有株式数の割合 (%)	-	23.41	1.23	23.84	11.96	0.00	39.55	100.00	-

- (注) 1 自己株式991,453株は、「個人その他」に9,914単元及び「単元未満株式の状況」に53株を含めて記載しております。
- 2 「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ41単元及び67株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2025年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
松田物産株式会社	東京都新宿区西新宿1-26-2	3,470	13.39
松田芳明	東京都新宿区	3,032	11.70
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂1-8-1	2,143	8.27
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1-8-12	999	3.86
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 株式会社日本カストディ銀行)	東京都中央区晴海1-8-12	931	3.59
松田和子	東京都中野区	793	3.06
對馬純子	東京都中野区	793	3.06
松田邦子	東京都中野区	763	2.94
住友生命保険相互会社 (常任代理人 株式会社日本カストディ銀行)	東京都中央区晴海1-8-12	665	2.57
エム企画株式会社	東京都新宿区西新宿1-26-2	479	1.85
計		14,072	54.30

- (注) 上記のほか当社所有の自己株式991千株があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 991,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,857,500	258,575	
単元未満株式	普通株式 59,681		
発行済株式総数	26,908,581		
総株主の議決権		258,575	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が4,100株(議決権41個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式53株及び証券保管振替機構の株式が67株含まれております。

【自己株式等】

2025年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 松田産業株式会社	東京都新宿区西新宿 1 - 26 - 2	991,400	-	991,400	3.68
計		991,400	-	991,400	3.68

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	127	0
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2025年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、 会社分割に係る移転を行った 取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	991,453	-	991,453	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2025年6月1日から有価証券報告書提出日までに取得した自己株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

会社の利益配分につきましては、株主還元の基本方針の下で、成長投資のための内部留保とのバランスを考慮しつつ、株主資本配当率1.5%以上を目安として安定且つ持続的な配当を実施することを方針としております。当期の期末配当金につきましては1株につき普通配当40円、年間での配当金は中間配当金とあわせて75円を予定しております。

なお、次期の配当につきましては1株につき90円（中間配当金45円、期末配当金45円）を予定しております。今後も利益水準に応じた総合的な株主利益の還元に努めてまいります。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当金）をすることができる。」旨を定款に定めております。

（注） 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たりの配当額（円）
2024年11月12日 取締役会決議	907	35.00
2025年6月25日 定時株主総会決議 (予定)	1,036	40.00

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営環境の変化に迅速に対処し、より公正で信頼性の高い経営を実現するための経営管理体制を構築するとともに、法律、社会規範、倫理等の遵守に力を注ぎ、全役職員を対象に時機を捉えた教育・訓練を実施してコンプライアンス体制の充実を図るとともに、経営の透明度を高めるために積極的な情報開示を行うことで、コーポレート・ガバナンスの充実を図ってまいります。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

イ 企業統治の体制の概要（2025年6月24日（有価証券報告書提出日）現在）

（取締役会）

当社の取締役会は、取締役10名（うち社外取締役4名）で構成されており、原則毎月1回の定例取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。取締役会は、法定事項を含めた重要な経営事項の審議・決定並びに各執行役員による業務執行の状況を監督しております。

（監査等委員会）

当社は、業務執行の適法性、妥当性の監査・監督機能の強化とコーポレート・ガバナンス体制の一層の強化を図り、より透明性の高い経営を実現することを目的に監査等委員会を設置しております。当社の監査等委員会は、常勤監査等委員1名及び非常勤監査等委員3名で構成されており、4名全員が社外取締役であります。監査等委員会は毎月開催し、取締役の職務執行状況、コンプライアンスやリスク管理を含む内部統制のシステムの構築、運営状況の監督・監査を行っております。また、内部監査部門である監査室及び会計監査人との情報交換を随時行うなど連携を強化し、監督・監査機能の充実を図っております。

（指名・報酬委員会）

当社は、2023年6月28日開催の取締役会（臨時）において、取締役（監査等委員であるものを除く。）及び監査等委員である取締役、並びに執行役員の候補の指名、報酬等の決定にあたり、独立性、客観性及び透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることを目的として、取締役会の任意の諮問機関として指名・報酬委員会を設置いたしました。

当委員会の過半数は、社外取締役に構成されており、あらかじめ定める年間スケジュールによるほか必要に応じて随時開催し、取締役会の諮問に応じて主に以下の事項に関する方針、手続き等について審議し、取締役会に対して報告又は答申いたします。

（1）代表取締役、取締役（監査等委員であるものを除く。）及び執行役員の指名（選解任、後継者計画を含む。）

（2）監査等委員である取締役の指名（選解任を含む。）

（3）取締役（監査等委員であるものを除く。）及び執行役員の報酬等

（4）その他、取締役会が必要と認めた事項

（執行役員会）

当社は、執行役員制度を導入し、経営機能と業務執行機能を分離して、市場環境の変化に迅速に対応できる体制としております。当社の執行役員会は、執行役員12名で構成されており、原則毎月1回の執行役員会を開催しております。執行役員会は、取締役会の委嘱を受けた事項その他の業務執行に係る重要事項を審議し、決定しています。

（サステナビリティ委員会）

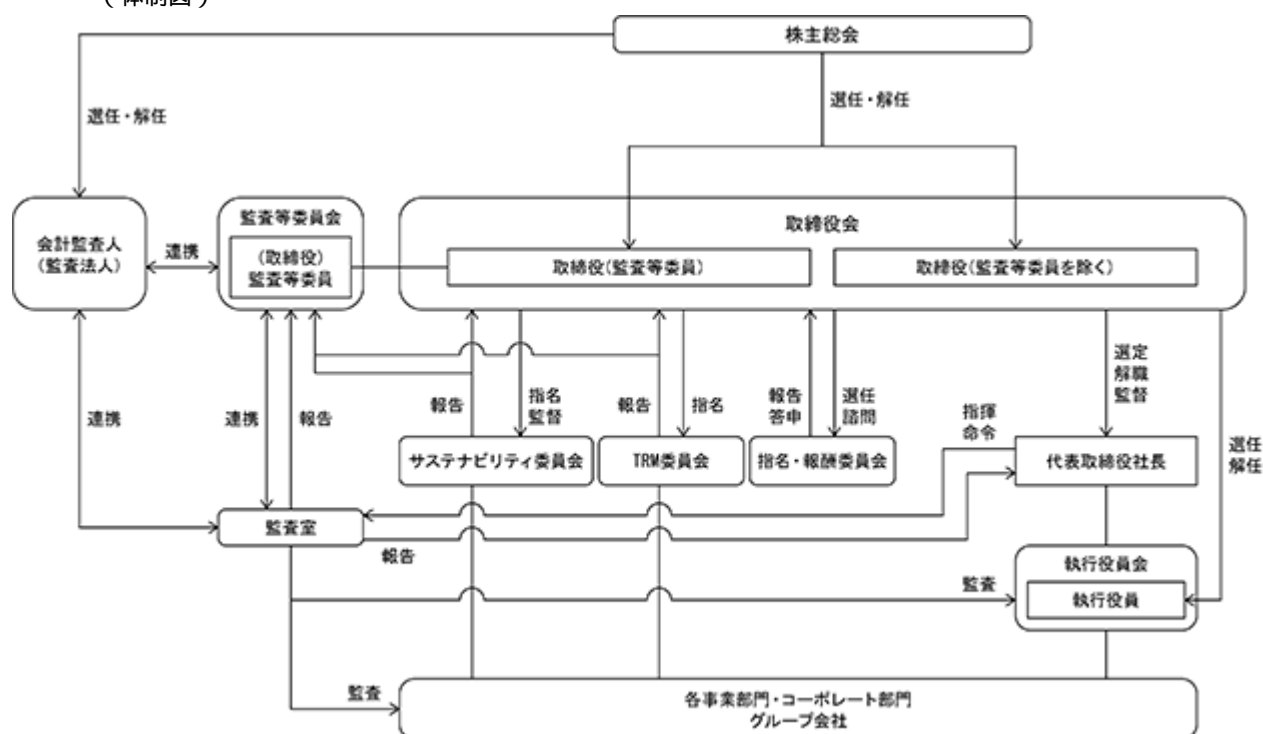
当社グループは、気候変動を始めとしたサステナビリティ課題への取り組みにおける取締役会の監督機能を強化するため、サステナビリティ委員会を設置しております。当委員会は、取締役会によって指名された取締役8名（うち社外取締役2名）と執行役員6名によって構成され、持続可能な環境・社会・経済の実現と企業価値向上の両立を目指し、長期的計画に基づきサステナビリティ課題への取り組みを推進してまいります。なお、当委員会においては、全体方針の策定、対処すべき重要事項の決定、リスクと機会に関する評価、目標設定及び推進計画の策定、推進体制の整備、推進状況のモニタリングなどを主に審議し、取締役会並びに監査等委員会に報告を行います。

（TRM委員会）

当社グループは、コンプライアンス、環境、災害、品質、情報セキュリティ、債権管理、商品相場、為替管理等、多岐に及ぶリスクを想定し、リスク管理をするためにTRM委員会を設置しております。当委員会は、執行役員11名並びに各部門部長等で構成されております。「TRM（トータルリスクマネジメント）委員会規程」に基づくTRM委員会の活動により、企業経営に重大な影響を与える様々なリスクの顕在化を未然に防止するとともに、万一緊急事態が発生した場合には迅速かつ確な対応を図ります。なお、委員長は、TRMの実施の状況について、取締役会並びに監査等委員会に報告を行います。

（注）2025年6月25日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として「取締役（監査等委員であるものを除く。）7名選任の件」及び「監査等委員である取締役4名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されると、当社の取締役は11名（うち、社外取締役4名）となる予定です。また、当該定時株主総会の直後に開催が予定されている取締役会の議案（決議事項）として「指名・報酬委員会の委員選任の件」「執行役員選任の件」及び「サステナビリティ委員会の委員選任の件」が付議される予定です。当該議案が承認可決されると、当社の指名・報酬委員会は取締役会によって指名された3名（うち社外取締役2名）、執行役員会は執行役員13名、サステナビリティ委員会は、取締役会によって指名された取締役9名（うち社外取締役2名）と執行役員6名となる予定です。

（体制図）



上記の図表は、2025年6月24日（有価証券報告書提出日）現在の状況を表示しています。当社は、2025年6月25日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として「取締役7名選任の件」及び「監査等委員である取締役4名の件」を提案していますが、当該議案が承認可決された場合の状況も同様です。

2025年6月24日（有価証券報告書提出日）現在の取締役会及び各委員会の構成は次のとおりです。

地位	氏名	取締役会	監査等委員会	指名・報酬委員会	執行役員会	サステナビリティ委員会	TRM委員会
代表取締役社長	松田芳明						
取締役副社長	對馬浩二						
取締役	山崎隆一						
取締役	石禾健二						
取締役	上田雄大						
取締役	今井英人						
監査等委員長	畠山伸一						
監査等委員	内山敏彦						
監査等委員	小島敏幸						
監査等委員	宮田礼子						
上席執行役員	新藤裕一郎						
執行役員	増井祐二						
執行役員	田中善則						
執行役員	川村啓之						
執行役員	池田一夫						
執行役員	西出悌順						

は構成員、 は機関の長（議長または委員長）をそれぞれ示しています。

2025年6月25日定時株主総会日以降（予定）の取締役会及び各委員会の構成は次のとおりです。

地位	氏名	取締役会	監査等委員会	指名・報酬委員会	執行役員会	サステナビリティ委員会	TRM委員会
代表取締役社長	松田芳明						
取締役副社長	對馬浩二						
取締役	山崎隆一						
取締役	石禾健二						
取締役	上田雄大						
取締役	今井英人						
取締役	田中善則						
監査等委員長	鈴木一宏						
監査等委員	畠山伸一						
監査等委員	宮田礼子						
監査等委員	小島康雄						
上席執行役員	新藤裕一郎						
執行役員	増井祐二						
執行役員	川村啓之						
執行役員	池田一夫						
執行役員	西出悌順						
執行役員	鈴木秀樹						

は構成員、 は機関の長（議長または委員長）をそれぞれ示しています。

□ 企業統治の体制を採用する理由

当社におけるコーポレート・ガバナンスを実効あるものとするために、意思決定における透明性及び公平性の

確保が重要であるとの認識に立ち、監査等委員会設置会社を選択し、監査等委員4名全員を社外取締役とすることで、独立・中立の立場からの経営の監督機能の強化を図っております。

また、執行役員制度を導入し、経営機能と業務執行機能の双方の強化を図ることで市場環境の変化に対して、より適切かつ迅速に対応できる体制としております。

企業統治に関するその他の事項

イ 内部統制システムの整備の状況

当社は、会社法及び会社法施行規則に基づき、次のとおり、内部統制システムを整備しております。

1. 取締役・執行役員及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

法令及び定款を含めたコンプライアンスを遵守した行動をとるための「松田産業グループ グローバル行動規範」を定め、この規範を遵守するための推進体制や手順を「コンプライアンス規程」に定める。コンプライアンス統括責任者は、全社のコンプライアンスの取り組みを横断的に統括し、コンプライアンス違反事案への対応、コンプライアンスリスク低減を含む全社リスクの適正な管理を推進する。これらの活動は定期的に取締役会及び監査等委員会に報告される。コンプライアンス違反行為等に関する内部通報、外部通報及び公益通報の処理の仕組みを定めた「通報管理規程」を制定し、不正行為等の早期発見と是正を図るための通報制度を構築している。内部監査部門は、コンプライアンスの状況を監査する。これらの活動は定期的に取締役会及び監査等委員会に報告されるものとする。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

「文書管理規程」に従い、取締役の職務執行に係る情報を文書または電磁的媒体（以下、文書等という）に記録し、保存する。取締役及び監査等委員会は、「文書管理規程」により、常時、これらの文章等を閲覧できるものとする。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

コンプライアンス、環境、災害、品質、情報セキュリティ、債権管理、商品相場、為替管理等に係るリスクについては、担当部署において、法令及び社内規程を遵守し、規則・マニュアル・ガイドラインの作成・配布、教育訓練の実施を通じて、リスク管理の徹底を図る。

「コンプライアンス規程」に基づいて「TRM（トータルリスクマネジメント）委員会規程」を制定し、企業経営に重大な影響を与える様々なリスクの顕在化を未然に防止するとともに、万一緊急事態が発生した場合に迅速かつ的確に対処し、速やかな復旧を図るための組織体制を構築している。全社のリスクに関する総括責任者としてTRM委員長を任命し、全体的リスク管理の進捗状況のレビューを実施する。この結果は取締役会及び監査等委員会に報告される。

情報セキュリティに関しては、「情報セキュリティ管理規程」及び「秘密情報管理規程」を設け、すべての取締役・執行役員及び使用人に対して、情報セキュリティに関する行動規範を示し、情報セキュリティの確保、維持を図る。

監査室が部署毎のリスク管理の状況を監査する。

法務部が各事業所の実地調査により、環境法令等の遵守状況の確認及び遵法性に関する指導を行う。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は、取締役・執行役員及び使用人が共有する全社的な目標を定め、この浸透を図るとともに、この目標達成に向けて各部門が実施すべき各年度の具体的な目標を定める。

効率的な情報システムを用いた業績管理により、取締役会が定期的にその目標達成のレビューを実施し、業務の改善を促すことで目標達成の確度を高め、全社的な業務の効率化を実現する。

情報システムに関しては「情報システム管理規程」において、全体最適化計画、企画、開発、運用、及び保守についての基本指針を定め、これらの業務の体系的かつ効果的な遂行を図る。

5. 次に掲げる体制その他の当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

(1) 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

当社は、当社が定める「関係会社管理規程」において、関係会社の経営内容を的確に把握するため、業績、財務状況その他重要な事項について必要に応じて関係資料等の報告及び提出を求める。

(2) 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、当社グループ全体のリスク管理について「コンプライアンス規程」に基づいて子会社にリスクマネジメントを行うことを求めるとともに、グループ全体のリスクを網羅的・統括的に管理する。

当社は、子会社を含めたリスク管理を担当する機関としてTRM（トータルリスクマネジメント）委員会を運営し、グループ全体のリスクマネジメント推進にかかわる課題・対応策を審議する。

(3) 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

「関係会社管理規程」に基づき、業務の円滑化及び管理の適正化を図り、当社及び関係会社間の情報の共有化、指示・要請の伝達等が効率的に行われる体制を構築する。

(4) 子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は子会社に、その取締役等及び使用人が「松田産業グループ グローバル行動規範」「コンプライアンス規程」に基づき、法令及び定款を遵守した行動に努める体制を構築している。

当社は子会社に、コンプライアンス違反行為等に関する内部通報、外部通報及び公益通報について通報制度を定め、不正行為等の早期発見と是正を図るための体制を構築している。

(5) その他の当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

当社の内部監査部門は、子会社の内部監査を実施する。	
6. 監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する事項	監査室は監査等委員会を補助する体制を確保する。
7. 前号の使用人の取締役（監査等委員である取締役を除く）からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項	監査室に属する使用人の人事異動・人事評価については、監査等委員会の事前の承認を得るものとする。 監査室に属する使用人は、監査等委員会から指示を受けた職務を遂行する。
8. 当社及び子会社の取締役等及び使用人の監査等委員会への報告に関する体制並びに報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制	取締役等及び使用人は、監査等委員会に対して、法定の事項に加え、当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況を速やかに報告する。 子会社の取締役等及び使用人またはこれらの者から報告を受けた者は、当社の監査等委員会に対して、子会社に重大な影響を及ぼす事項等を速やかに報告する。 報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するため、「通報管理規程」において体制を整備している。 通報制度の担当部門は、当社及び子会社の取締役等及び使用人からの通報の状況について、定期的に監査等委員会に対して報告する。 当社監査室、法務部は、定期的に当社監査等委員会に対する報告会を実施し、子会社における内部監査、コンプライアンス、リスク管理等の現状を報告する。
9. 監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項	監査等委員会が選定した監査等委員がその職務の執行について生ずる費用の前払または償還の請求をしたときは、当該監査等委員の職務の執行に必要なないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。
10. その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制	監査等委員会は、代表取締役社長、執行役員、会計監査人及び子会社の取締役等とそれぞれ定期的に重要事項等につき意見交換会を開催することとする。
11. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及び体制	当社は、「松田産業グループ グローバル行動規範」において「適正な事業活動を阻害する反社会的勢力・組織と、直接間接の別を問わず一切関与しません。」という方針を明確にするとともに、「反社会的勢力に対応するための指針」により、当社が締結する契約書に反社会的勢力を排除する条項を盛り込むことなどの具体的活動指針を定め、方針の徹底を図る。

□ 責任限定契約の内容の概要

会社法第427条第1項に基づき、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）及び会計監査人との間で会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額であります。なお、当該責任限定が認められるのは、当該取締役及び会計監査人が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

ハ 補償契約の内容の概要

当社は、各取締役及び各監査等委員との間で、会社法第430条の2第1項に規定する補償契約を締結しており、同項第1号の費用及び同項第2号の損失を法令の定める範囲内において当社が補償することとしております。ただし、法令違反の行為であることを認識して行った行為に起因して生じた損害は補償されないなど、一定の免責事由があります。

二 役員等賠償責任保険の内容の概要

被保険者の範囲

当社の取締役及び執行役員

保険契約の内容の概要

a 被保険者の実質的な保険料負担割合

保険料は特約部分も含め会社負担としており、被保険者の実質的な保険料負担はありません。

b 補填の対象となる保険事故の概要

特約部分も含め、被保険者である役員等がその職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求をうけることによって生ずることのある損害について補填します。ただし、法令違反の行為であることを認識して行った行為の場合等一定の免責事由があります。

c 役員等の職務の執行の適正性が損なわれないようにするための措置

保険契約に免責額の定めを設けており、当該免責額までの損害については補填の対象としないこととしております。

ホ 取締役の定数

当社の取締役（監査等委員であるものを除く。）は15名以内とし、監査等委員である取締役は5名以内とする旨を定款に定めております。

ヘ 取締役の選解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

ト 取締役会で決議できる株主総会決議に関する事項

（自己株式の取得）

当社は、経営環境に応じた機動的な資本政策を可能にするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己株式の取得をすることができる旨を定款に定めております。

（取締役の責任免除）

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、同法第423条第1項の取締役（取締役であったものを含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。

（中間配当金）

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当をすることができる旨を定款に定めております。

取締役会の活動状況

当社の取締役会は月１回を原則に当事業年度は計16回開催しており、個々の取締役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	出席状況	出席率
松田 芳明	16回/16回	100.0%
對馬 浩二	16回/16回	100.0%
山崎 隆一	16回/16回	100.0%
都築 淳一	4回/ 4回	100.0%
石禾 健二	16回/16回	100.0%
上田 雄大	16回/16回	100.0%
和田 正幸	12回/12回	100.0%
今井 英人	12回/12回	100.0%
畠山 伸一	15回/16回	93.8%
内山 敏彦	16回/16回	100.0%
小島 敏幸	16回/16回	100.0%
宮田 礼子	16回/16回	100.0%

(注) 都築淳一氏は、2024年６月26日開催の定時株主総会終結の時をもって退任しておりますので、退任前の出席状況を記載しております。
今井英人氏は2024年６月26日就任以降開催された取締役会について記載しております。
和田正幸氏は2025年１月１日に逝去され、取締役を退任いたしました。

取締役会における具体的な検討内容は、中期経営戦略の議論、サステナビリティ委員会の報告、TRM委員会の報告、指名・報酬委員会の報告、設備投資、諸規程制定、部長職以上の人事、月次決算・四半期決算及び各種開示資料の報告、株式の取得等であります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

1. 2025年6月24日（有価証券報告書提出日）現在の当社の役員の状況は、以下のとおりです。

男性9名 女性1名 （役員のうち女性の比率10%）

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有 株式数 (千株)
代表取締役社長 社長執行役員 指名・報酬委員長 サステナビリティ委員長	松田 芳明	1961年10月9日生	1984年4月 1988年4月 1988年10月 1991年1月 1992年7月 1995年6月 1996年1月 1999年4月 2000年1月 2003年5月 2016年6月 2022年5月 2023年6月	沖電気工業㈱入社 日本水産㈱入社 当社取締役 当社常務取締役 当社営業・生産・経営企画室管掌 当社専務取締役 当社営業・経営企画室管掌 当社取締役副社長 当社代表取締役 当社代表取締役社長(現任) 当社社長執行役員(現任) 当社サステナビリティ委員長(現任) 当社指名・報酬委員長(現任)	(注) 3	3,032
取締役副社長 副社長執行役員 社長執行役員補佐・コーポレート部門統括兼経営企画室長 兼人事部・総務部管掌	對馬 浩二	1968年6月9日生	1992年4月 1992年5月 2001年8月 2001年8月 2002年6月 2003年5月 2004年6月 2008年2月 2009年7月 2015年4月 2016年6月 2016年6月 2023年6月 2025年1月 2025年3月	㈱東芝入社 同社半導体事業部 当社入社 当社経営企画室部長 当社取締役 当社常務取締役 当社専務取締役 当社社長補佐兼経営企画部門管掌 当社社長補佐兼経営企画部門管掌兼経営企画室長 当社取締役副社長(現任) 当社社長補佐兼経営企画室長 当社副社長執行役員(現任) 当社社長執行役員補佐兼経営企画室長 当社社長執行役員補佐・コーポレート部門統括兼経営企画室長(現任) 当社人事部・総務部・法務部管掌 当社人事部・総務部管掌(現任)	(注) 3	319
取締役 常務執行役員 金属・環境営業本部長	山崎 隆一	1958年8月24日生	1981年4月 2004年4月 2006年4月 2007年1月 2007年6月 2013年10月 2015年4月 2016年1月 2016年6月 2019年4月 2019年6月 2020年4月 2021年4月 2022年4月 2023年4月 2023年6月	当社入社 当社環境事業部環境営業部長 当社環境事業部副事業部長兼環境ソリューション営業部長 当社環境事業部長兼環境ソリューション営業部長 当社取締役(現任) 当社環境事業部環境リサイクル営業部長 当社金属・環境営業本部長兼国内営業部長兼営業企画推進部長兼アーバンリサイクル営業部管掌 当社金属・環境営業本部長兼アーバンリサイクル営業部管掌 当社執行役員 当社金属・環境営業本部長兼営業企画推進部長兼金属・環境海外本部管掌 当社上席執行役員 当社金属・環境営業本部長兼営業企画推進部長 当社金属・環境営業本部長 当社金属・環境営業本部長 兼営業第一部長兼営業第三部長 当社金属・環境営業本部長 兼営業第一部長 当社金属・環境営業本部長(現任) 当社常務執行役員(現任)	(注) 3	2

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 上席執行役員 食品事業部長兼営業管理部 長	石 禾 健二	1963年10月12日生	1988年 4 月 2012年 4 月 2014年 4 月 2014年 6 月 2014年 6 月 2016年 2 月 2016年 6 月 2018年 4 月 2019年 4 月 2019年 6 月 2020年 4 月 2022年11月 2023年 6 月 2025年 4 月	当社入社 当社人事教育部長 当社食品事業部長兼水産部長 当社食品事業部長兼水産部長兼畜産部長 当社取締役(現任) 当社食品事業部長兼畜産部長兼農産部長 当社執行役員 当社食品事業部長兼水産部長兼畜産部長 兼海外推進部長 当社食品事業部長兼水産第二部長 当社食品事業部長兼水産第二部長兼営業 企画推進部長 当社食品事業部長 当社食品事業部長兼営業企画推進部長 当社上席執行役員(現任) 当社食品事業部長兼営業管理部長(現任)	(注) 3	3
取締役 執行役員 管理部長兼財務部長兼TRM 委員長兼情報システム部・ 地金市場部管掌	上 田 雄大	1972年 7 月27日生	1996年 3 月 2017年 4 月 2020年 4 月 2020年 6 月 2022年 4 月 2023年 4 月 2024年 4 月 2025年 1 月	当社入社 当社経営企画室部長 当社管理部長兼財務部長 当社取締役(現任) 当社執行役員(現任) 当社地金市場部管掌 当社情報システム部管掌 当社経理部長 当社管理部長兼財務部長兼情報システム 部・地金市場部管掌(現任) 当社TRM委員長(現任)	(注) 3	2
取締役 執行役員 生産統括本部長兼品質保証 室管掌	今 井 英人	1972年 1 月19日生	1998年 1 月 2018年 4 月 2019年 4 月 2023年 4 月 2023年 6 月 2023年 6 月 2024年 4 月 2024年 6 月	当社入社 当社貴金属リサイクル事業部生産部長兼 事業推進部長 当社貴金属リサイクル事業部リサイクル 生産部長 当社生産統括本部長 当社執行役員(現任) 当社生産統括本部長兼生産管理部長兼品 質保証室管掌 当社生産統括本部長兼品質保証室管掌(現 任) 当社取締役(現任)	(注) 3	2
取締役 (監査等委員)	畠 山 伸一	1953年 3 月18日生	1981年10月 1997年 9 月 2005年 7 月 2007年 8 月 2015年 6 月 2016年 6 月	新光監査法人入所 中央監査法人社員 同代表社員 新日本監査法人(現・EY新日本有限責任監 査法人)代表社員 新日本有限責任監査法人(現・EY新日本有 限責任監査法人)退職 当社取締役(常勤監査等委員)(現任)	(注) 4	

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 (監査等委員)	内山 敏彦	1952年 7 月 7 日生	1975年 4 月 1987年 1 月 1996年 6 月 2007年 8 月 2010年 6 月 2011年 6 月 2015年 6 月	扶桑監査法人入所 新光監査法人社員 中央監査法人代表社員 新日本監査法人(現・EY新日本有限責任監査法人)代表社員 新日本有限責任監査法人(現・EY新日本有限責任監査法人)退職 当社常勤監査役 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注) 4	
取締役 (監査等委員)	小島 敏幸	1955年 8 月 3 日生	1979年 4 月 2009年 4 月 2010年 4 月 2011年 4 月 2012年 4 月 2014年 4 月 2016年 3 月 2016年 6 月 2019年 3 月 2019年 6 月	埼玉県庁入庁 同県民生活部広聴広報課長 同総務部参事兼人事課長 同企画財政部改革政策局長 同病院局長 同危機管理防災部長 同退職 (株)エフエムナックファイブ取締役渉外部長 同退任 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注) 4	
取締役 (監査等委員)	宮田 礼子	1956年 7 月18日生	1979年 4 月 1983年 7 月 1986年 5 月 1990年 1 月 1995年11月 1999年12月 2000年 6 月 2002年 7 月 2003年 1 月 2023年 6 月	住友商事(株)入社 同社退職 日本教育社会学会事務局入社 同退職 横浜市住宅政策審議会委員 同退任 横浜市都市計画審議会委員 同退任 オフィスWEG開業 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注) 4	
計						3,360

- (注) 1 当社は監査等委員会設置会社であります。
- 2 取締役畠山伸一氏、内山敏彦氏、小島敏幸氏及び宮田礼子氏は社外取締役であります。
なお、当社は社外取締役である畠山伸一氏、内山敏彦氏、小島敏幸氏及び宮田礼子氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
- 3 監査等委員以外の取締役の任期は、2025年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査等委員である取締役の任期は、2025年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 取締役副社長對馬浩二は、代表取締役社長松田芳明の義弟であります。
- 6 和田正幸氏は2025年 1 月1日に、逝去により、取締役を退任いたしました。
- 7 当社は執行役員制度を導入しており、執行役員の状況は次のとおりであります。

役名	氏名	担当
社長執行役員	松田 芳明	サステナビリティ委員長兼指名・報酬委員長
副社長執行役員	對馬 浩二	社長執行役員補佐・コーポレート部門統括兼経営企画室長兼人事部・総務部管掌
常務執行役員	山崎 隆一	金属・環境営業本部長
上席執行役員	石禾 健二	食品事業部長兼営業管理部長
執行役員	上田 雄大	TRM委員長兼管理部長兼財務部長兼情報システム部・地金市場部管掌
執行役員	今井 英人	生産統括本部長兼品質保証室管掌
上席執行役員	新藤 裕一郎	上席執行役員貴金属材料事業部長兼知財部長・技術開発部管掌
執行役員	増井 祐二	貴金属リサイクル事業部長
執行役員	田中 善則	経理部長兼CSR・IR部長兼法務部長
執行役員	川村 啓之	食品事業部農産部長
執行役員	池田 一夫	環境ソリューション事業部長
執行役員	西出 悌順	金属・環境海外本部長兼海外営業部長

2. 2025年6月25日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として、「取締役（監査等委員であるものを除く。）7名選任の件」及び「監査等委員である取締役4名選任の件」を上程しており、当該決議が承認可決されますと、当社の役員の状況及びその任期は、以下のとおりとなる予定です。

なお、役員の役職等については、当該定時株主総会の直後に開催が予定される取締役会の決議事項の内容（役職等）を含めて記載しています。

男性10名 女性1名 （役員のうち女性の比率9%）

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長 社長執行役員 指名・報酬委員長 サステナビリティ委員長	松田 芳明	1961年10月9日生	1984年4月 1988年4月 1988年10月 1991年1月 1992年7月 1995年6月 1996年1月 1999年4月 2000年1月 2003年5月 2016年6月 2022年5月 2023年6月	沖電気工業(株)入社 日本水産(株)入社 当社取締役 当社常務取締役 当社営業・生産・経営企画室管掌 当社専務取締役 当社営業・経営企画室管掌 当社取締役副社長 当社代表取締役 当社代表取締役社長(現任) 当社社長執行役員(現任) 当社サステナビリティ委員長(現任) 当社指名・報酬委員長(現任)	(注)3	3,032
取締役副社長 副社長執行役員 社長執行役員補佐・コーポレート部門統括兼経営企画室長 兼人事部・総務部管掌	對馬 浩二	1968年6月9日生	1992年4月 1992年5月 2001年8月 2001年8月 2002年6月 2003年5月 2004年6月 2008年2月 2009年7月 2015年4月 2016年6月 2016年6月 2023年6月 2025年1月 2025年3月	(株)東芝入社 同社半導体事業部 当社入社 当社経営企画室部長 当社取締役 当社常務取締役 当社専務取締役 当社社長補佐兼経営企画部門管掌 当社社長補佐兼経営企画部門管掌兼経営企画室長 当社取締役副社長(現任) 当社社長補佐兼経営企画室長 当社副社長執行役員(現任) 当社社長執行役員補佐兼経営企画室長 当社社長執行役員補佐・コーポレート部門統括兼経営企画室長(現任) 当社人事部・総務部・法務部管掌 当社人事部・総務部管掌(現任)	(注)3	319
取締役 常務執行役員 金属・環境営業本部長	山崎 隆一	1958年8月24日生	1981年4月 2004年4月 2006年4月 2007年1月 2007年6月 2013年10月 2015年4月 2016年1月 2016年6月 2019年4月 2019年6月 2020年4月 2021年4月 2022年4月 2023年4月 2023年6月	当社入社 当社環境事業部環境営業部長 当社環境事業部副事業部長兼環境ソリューション営業部長 当社環境事業部長兼環境ソリューション営業部長 当社取締役(現任) 当社環境事業部環境リサイクル営業部長 当社金属・環境営業本部長兼国内営業部長兼営業企画推進部長兼アーバンリサイクル営業部管掌 当社金属・環境営業本部長兼アーバンリサイクル営業部管掌 当社執行役員 当社金属・環境営業本部長兼営業企画推進部長兼金属・環境海外本部管掌 当社上席執行役員 当社金属・環境営業本部長兼営業企画推進部長 当社金属・環境営業本部長 当社金属・環境営業本部長 兼営業第一部長兼営業第三部長 当社金属・環境営業本部長 兼営業第一部長 当社金属・環境営業本部長(現任) 当社常務執行役員(現任)	(注)3	2

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 上席執行役員 食品事業部長兼営業管理部 長	石 禾 健二	1963年10月12日生	1988年 4 月 2012年 4 月 2014年 4 月 2014年 6 月 2014年 6 月 2016年 2 月 2016年 6 月 2018年 4 月 2019年 4 月 2019年 6 月 2020年 4 月 2022年11月 2023年 6 月 2025年 4 月	当社入社 当社人事教育部長 当社食品事業部長兼水産部長 当社食品事業部長兼水産部長兼畜産部長 当社取締役(現任) 当社食品事業部長兼畜産部長兼農産部長 当社執行役員 当社食品事業部長兼水産部長兼畜産部長 兼海外推進部長 当社食品事業部長兼水産第二部長 当社食品事業部長兼水産第二部長兼営業 企画推進部長 当社食品事業部長 当社食品事業部長兼営業企画推進部長 当社上席執行役員(現任) 当社食品事業部長兼営業管理部長(現任)	(注) 3	3
取締役 執行役員 管理部長兼財務部長兼TRM 委員長兼情報システム部・ 地金市場部管掌	上 田 雄大	1972年 7 月27日生	1996年 3 月 2017年 4 月 2020年 4 月 2020年 6 月 2022年 4 月 2023年 4 月 2024年 4 月 2025年 1 月	当社入社 当社経営企画室部長 当社管理部長兼財務部長 当社取締役(現任) 当社執行役員(現任) 当社地金市場部管掌 当社情報システム部管掌 当社経理部長 当社管理部長兼財務部長兼情報システム 部・地金市場部管掌(現任) 当社TRM委員長(現任)	(注) 3	2
取締役 執行役員 生産統括本部長兼品質保証 室管掌	今 井 英人	1972年 1 月19日生	1998年 1 月 2018年 4 月 2019年 4 月 2023年 4 月 2023年 6 月 2023年 6 月 2024年 4 月 2024年 6 月	当社入社 当社貴金属リサイクル事業部生産部長兼 事業推進部長 当社貴金属リサイクル事業部リサイクル 生産部長 当社生産統括本部長 当社執行役員(現任) 当社生産統括本部長兼生産管理部長兼品 質保証室管掌 当社生産統括本部長兼品質保証室管掌(現 任) 当社取締役(現任)	(注) 3	2
取締役 執行役員 経理部長兼CSR・IR部長 兼法務部長	田 中 善則	1964年11月 6 日生	2010年 1 月 2014年 4 月 2020年 4 月 2020年 6 月 2022年 4 月 2023年 4 月 2024年 4 月 2025年 3 月 2025年 6 月	当社入社 当社管理部長 当社経営企画室部長兼IR部長 当社執行役員(現任) 当社経営企画室部長兼CSR・IR部長 当社CSR・IR部部長兼経営企画室部長 当社経理部長兼CSR・IR部長(現任) 当社法務部長(現任) 当社取締役(予定)	(注) 3	
取締役 (監査等委員)	鈴木 一宏	1961年 7 月28日生	1984年10月 1999年 5 月 2004年 5 月 2007年 8 月 2024年 6 月 2025年 6 月	新光監査法人入所 中央監査法人社員 同代表社員 新日本監査法人(現・EY新日本有限責任監 査法人)代表社員 EY新日本有限責任監査法人退職 当社取締役(常勤監査等委員)(予定)	(注) 4	

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 (監査等委員)	畠山 伸一	1953年 3 月18日生	1981年10月 1997年 9 月 2005年 7 月 2007年 8 月 2015年 6 月 2016年 6 月	新光監査法人入所 中央監査法人社員 同代表社員 新日本監査法人(現・EY新日本有限責任 監査法人)代表社員 新日本有限責任監査法人(現・EY新日本 有限責任監査法人)退職 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注) 4	
取締役 (監査等委員)	宮田 礼子	1956年 7 月18日生	1979年 4 月 1983年 7 月 1986年 5 月 1990年 1 月 1995年11月 1999年12月 2000年 6 月 2002年 7 月 2003年 1 月 2023年 6 月	住友商事㈱入社 同社退職 日本教育社会学会事務局入社 同退職 横浜市住宅政策審議会委員 同退任 横浜市都市計画審議会委員 同退任 オフィスWEG開業 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注) 4	
取締役 (監査等委員)	小島 康雄	1961年11月12日生	1984年 4 月 2009年 4 月 2011年 4 月 2013年 4 月 2015年 4 月 2017年 4 月 2019年10月 2020年 4 月 2022年 3 月 2022年 4 月 2025年 3 月 2025年 6 月	埼玉県庁入庁 同教育局県立学校部生徒指導課長 同福祉部子育て支援課長 同企画財政部企画総務課長 同企画財政部副部長 同教育局副教育長 同県民生活部長 同知事室長 同退職 埼玉県浦和競馬組合副管理者 同退任 当社取締役(監査等委員)(予定)	(注) 4	
計						3,360

- (注) 1 当社は監査等委員会設置会社であります。
- 2 取締役鈴木一宏氏、畠山伸一氏、宮田礼子氏及び小島康雄氏は社外取締役であります。
なお、当社は社外取締役である畠山伸一氏、宮田礼子氏を東京証券取引所の定めに基づく、独立役員として
指定し、同取引所に届け出ております。
また、鈴木一宏氏及び小島康雄氏も独立役員として、東京証券取引所に届け出る予定でございます。
- 3 監査等委員以外の取締役の任期は、2026年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査等委員である取締役の任期は、2027年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 取締役副社長對馬浩二は、代表取締役社長松田芳明の義弟であります。
- 6 当社は執行役員制度を導入しており、執行役員の状況は次のとおり予定しております。

役名	氏名	担当
社長執行役員	松田 芳明	サステナビリティ委員長兼指名・報酬委員長
副社長執行役員	對馬 浩二	社長執行役員補佐・コーポレート部門統括兼経営企画室長兼人事部・総務部管掌
常務執行役員	山崎 隆一	金属・環境営業本部長
上席執行役員	石禾 健二	食品事業部長兼営業管理部長
執行役員	上田 雄大	TRM委員長兼管理部長兼財務部長兼情報システム部・地金市場部管掌
執行役員	今井 英人	生産統括本部長兼品質保証室管掌
執行役員	田中 善則	経理部長兼CSR・IR部長兼法務部長
上席執行役員	新藤 裕一朗	上席執行役員貴金属材料事業部長兼知財部長・技術開発部管掌
執行役員	増井 祐二	貴金属リサイクル事業部長
執行役員	川村 啓之	食品事業部農産部長
執行役員	池田 一夫	環境ソリューション事業部長
執行役員	西出 悌順	金属・環境海外本部長兼海外営業部長
執行役員	鈴木 秀樹	人事部長兼総務部管掌補佐

社外役員の状況

有価証券報告書提出日（2025年6月24日）現在、当社の社外取締役は4名であります。また、4名全員を東京証券取引所の定める独立役員として届け出ております。

社外取締役畠山伸一氏は、公認会計士として会計分野の経験と高い見識を有しており、その知識や経験等を活かし当社の企業価値向上及びガバナンス強化に向けた取り組みへの監査・監督を行っていただいております。なお、サステナビリティ委員会の委員も務めていただいております。当社と同氏の間には、人的関係、資本的関係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役内山敏彦氏は、公認会計士として会計分野の経験と高い見識を有しており、その知識や経験等を活かし当社の企業価値向上及びガバナンス強化に向けた取り組みへの監査・監督を行っていただいております。なお、取締役会の任意の諮問機関として設置している指名・報酬委員会の委員も務めていただいております。当社と同氏の間には、人的関係、資本的関係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役小島敏幸氏は、地方行政分野等の経験と高い見識を有しており、その知識や経験等を活かし当社の企業価値向上及びガバナンス強化に向けた取り組みへの監査・監督を行っていただいております。なお、取締役会の任意の諮問機関として設置している指名・報酬委員会の委員も務めていただいております。当社と同氏の間には、人的関係、資本的関係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役宮田礼子氏は、研修講師、コンサルタントとしての人事労務・人材開発分野及び地方公共団体審議会委員としての社会活動等、豊富な経験と高い見識を有しており、その知識や経験等を活かし当社の企業価値の向上及びガバナンス強化に向けた取り組みへの監査・監督を行っていただいております。なお、サステナビリティ委員会の委員も務めていただいております。当社と同氏の間には、人的関係、資本的関係及び重要な取引関係その他利害関係はありません。

なお、2025年6月25日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として、「監査等委員である取締役4名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決された場合においても、当社の社外取締役は4名となります。また、4名全員を東京証券取引所の定める独立役員として届け出る予定であります。

社外取締役候補者鈴木一宏氏は、公認会計士として会計分野の経験と高い見識を有しており、その知識や経験等を活かし当社の企業価値向上及びガバナンス強化に向けた取り組みへの監査・監督を行っていただけるものと判断しております。なお、サステナビリティ委員会の委員も務めていただく予定であります。当社と同氏の間には、人的関係、資本的関係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役候補者畠山伸一氏は、公認会計士として会計分野の経験と高い見識を有しており、その知識や経験等を活かし当社の企業価値向上及びガバナンス強化に向けた取り組みへの監査・監督を引き続き行っていただけるものと判断しております。なお、取締役会の任意の諮問機関として設置している指名・報酬委員会の委員も務めていただく予定であります。当社と同氏の間には、人的関係、資本的関係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役候補者宮田礼子氏は、研修講師、コンサルタントとしての人事労務・人材開発分野及び地方公共団体審議会委員としての社会活動等、豊富な経験と高い見識を有しており、その知識や経験等を活かし当社の企業価値の向上及びガバナンス強化に向けた取り組みへの監査・監督を引き続き行っていただけるものと判断しております。なお、引き続きサステナビリティ委員会の委員も務めていただく予定であります。当社と同氏の間には、人的関係、資本的関係及び重要な取引関係その他利害関係はありません。

社外取締役候補者小島康雄氏は、地方行政分野等の経験と高い見識を有しており、その知識や経験等を活かし当社の企業価値向上及びガバナンス強化に向けた取り組みへの監査・監督を行っていただけるものと判断しております。なお、取締役会の任意の諮問機関として設置している指名・報酬委員会の委員も務めていただく予定であります。当社と同氏の間には、人的関係、資本的関係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、社外取締役を選任するための独立性に関する基準を以下のとおり定めております。

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1. 現に当社グループの業務執行者（注1）でなく、過去においても当社グループの業務執行者となったことがないこと。2. 過去5年間に於いて、当社グループの主要な取引先（注2）である企業等、または当社グループを主要な取引先とする企業等の業務執行者でないこと。3. 過去5年間に於いて、当社グループから取締役報酬以外に多額の報酬（注3）を直接受け取っている者でないこと。また、現在及び過去1年間に於いて、コンサルタント、会計専門家、法律専門家として所属する法人等が当社グループから高額の報酬（注4）を受け取っていないこと。4. 過去5年間に於いて、当社グループから多額の寄付（注5）を受けている者、または寄付を受けている法人、団体等の業務執行者でないこと。過去5年間に於いて、当社グループの会計監査人または監査法人の社員、パートナーまたは使用人であって、当社グループの監査業務を実際に担当していた者でないこと。 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

5. 現在、当社グループの主要株主（注６）である者、またはその利益を代表する者でないこと。
6. 現在、当社グループが主要株主である企業等の業務執行者でないこと。
7. 現在、当社グループの借入先である企業等の業務執行者でないこと。
8. 過去５年間に於いて、当社グループとの間で、取締役が相互就任の関係にある企業等の業務執行者でないこと。
9. 以下に該当する者の近親者（注７）でないこと。
過去５年間に於いて当社グループの業務執行者である者（但し、この場合の業務執行者に含まれる使用人は部長格以上の使用人に限定する）。
１項から８項の各要件が否定される者（但し、１項から３項及び５項から８項は、業務執行者に含まれる使用人を除く）。
10. その他、取締役としての職務遂行において、重大な利益相反を生じさせる事項または判断に影響を及ぼすおそれのある利害関係等の独立性・中立性に支障を来たす事由を有していないこと。
（注１）業務執行者とは、業務執行取締役、執行役、執行役員、業務を執行する社員、会社法第598条第１項の職務を行うべき者その他これに相当する者、使用人をいう。
（注２）主要な取引先とは、過去の会計年度における当社グループとの取引高が、当社または取引先の連結売上高の２％以上である企業等をいう。
（注３）多額の報酬とは、年間１０百万円を超える報酬をいう。
（注４）高額の報酬とは、所属する法人等の連結売上高の２％以上をいう。
（注５）多額の寄付とは、年間１０百万円を超える寄付をいう。
（注６）主要株主とは、総議決権の１０％以上の議決権を直接または間接的に保有する者及び保有する企業等をいう。
（注７）近親者とは、二親等以内の親族をいう。

なお、社外取締役の当社株式の保有状況は、「第一部 〔企業情報〕 第４〔提出会社の状況〕 ４〔コーポレー

ト・ガバナンスの状況等〕 (2) 役員の状況 役員一覧」に記載のとおり、保有しておりません。

社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

当社の社外取締役４名は全員監査等委員であり、監査等委員は、取締役会・重要な会議に出席し、取締役の職務執行状況、コンプライアンスやリスク管理を含む内部統制のシステムの構築、運営状況の監督・監査を行っております。

監査等委員会は、当社の内部監査部門である監査室が行う各執行役員・各業務執行部門に対する業務監査、並びに内部統制評価について、実施状況と問題点の改善状況を定期的に聴取し、モニタリング機能の有効性を確認しております。また、会計監査人から監査計画の説明や監査結果報告を定期的に聴取するとともに情報・意見交換を行い、連携強化を図っております。

(3) 【監査の状況】

監査等委員会監査の状況

イ 監査等委員会の組織・人員について

有価証券報告書提出日（2025年６月24日）現在、当社の監査等委員会は取締役監査等委員４名（内、常勤監査等委員１名、非常勤監査等委員３名）で組織されており、全員が社外取締役であり、独立役員の要件を満たしておりますので全員を独立役員として東京証券取引所に届け出ております。また、取締役監査等委員２名（常勤監査等委員１名、非常勤監査等委員１名）は公認会計士の資格を有しており、当社の業務全般を把握し、財務・会計等に関する知見を有するものであります。

なお、2025年６月25日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として、「監査等委員である取締役４名選任の件」を提案しており、当議案が原案どおり承認可決された場合においても監査等委員会の組織・人員に変更はありません。

また、監査室のスタッフ５名が監査等委員会の職務を補助しております。

当事業年度開催の監査等委員会への出席状況は次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
畠山 伸一	14回	13回
内山 敏彦	14回	14回
小島 敏幸	14回	14回
宮田 礼子	14回	14回

ロ 監査等委員会及び監査等委員の活動状況

監査等委員会は毎月開催し、当事業年度は計14回開催しております。主な決議事項・報告事項は次のとおりです。

決議事項：監査等委員会監査計画、会計監査人の再任、会計監査人の報酬に対する同意、監査報告書等

報告事項：監査実施概要報告、重要会議出席報告、取締役会への監査等委員会活動報告等

監査等委員会の監査活動は、監査等委員会規程に基づき定められた監査実施基準により実施しております。監査等委員会はリスク分析・評価に基づき策定した年間監査計画に基づく監査を実施しており、監査等委員会における主な監査の視点と手続きは次のとおりです。

取締役・執行役員等の職務執行状況・業績評価の監査のために取締役会・重要な会議へ出席するとともに、業務執行取締役等との事業環境・課題・業績等について質問及び意見交換を実施しております。

コンプライアンスやリスク管理を含む内部統制システムの整備・運用状況の監査のために、取締役・執行役員等のリスク認識について質問及び意見交換を実施しております。

本社及び子会社等の事業場往査において、重要な決裁書類の閲覧、事業環境・課題等に関する代表者のリスク認識について質問及び意見交換を行うほか、業務・財産の状況の調査を行っております。

監査等委員会は、会計監査人、内部監査部門である監査室から監査計画及び監査結果についての報告を受けるとともに、リスク認識等について質問及び意見交換を実施しております。

常勤監査等委員の主な活動状況は、上記の活動のほか、必要に応じて関係部門や会計監査人、内部監査部門から情報収集を行い、常勤監査等委員として監査等委員会活動を取りまとめ、その結果を監査等委員会に報告し、会社の現況に対する監査等委員全員の共通認識を図るとともに、監査等委員会において意見交換を行っております。

内部監査の状況

当社は内部監査部門として監査室を設置しており、その人員は5名であります。監査室は、内部監査規程に基づく内部監査を実施しております。代表取締役社長・取締役会並びに監査等委員会へ直接報告した年度内部監査計画に基づき、当社及び子会社の業務全般に関し、内部統制の整備状況、業務の有効性・効率性並びにコンプライアンスの遵守状況等に関する業務監査を実施し、指摘事項については被監査部門へ是正を求め、その実施状況を確認しております。監査結果については、代表取締役社長・取締役会並びに監査等委員会へ直接報告を行っております。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制の評価を監査室で実施しております。あわせて、監査室は監査等委員会の職務を補助するため、監査等委員会から指示を受けた職務を遂行し、監査等委員会へ報告を行っております。

監査計画・監査結果の報告、意見交換、監査立ち会い等を監査等委員会・会計監査人・監査室で適宜行い、相互に密接な関係を構築し、監査体制の強化に努めております。

会計監査の状況

イ 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

ロ 継続監査期間

32年間

ハ 業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員： 中村 裕輔

指定有限責任社員 業務執行社員： 吉岡 浩二

ニ 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 7名

その他 29名

(注) その他は、公認会計士試験合格者、システム監査担当者等であります。

ホ 監査法人の選定方針と理由

監査等委員会は信頼性があり、適正な監査を確保できる会計監査人を選定することを基本方針としております。

会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると判断した場合、監査等委員会は、監査等委員全員の同意により会計監査人を解任いたします。また、会計監査人の再任の可否については、会計監査人の適格性、独立性及び職務の遂行状況に留意し、毎期検討を行っております。

その結果、不再任が妥当と判断した場合、監査等委員会は、会計監査人の不再任に関する株主総会提出議案の内容を決定いたします。

ヘ 監査等委員会による会計監査人の評価

当社の監査等委員会は、会計監査人に対して評価を行っております。

評価は、会計監査人選定の基本方針に基づき、適正な監査を確保できる会計監査人であるかを品質管理体制、監査計画、会計監査人及び監査チームの独立性、外部レビュー結果、監査等委員会・経営者・内部監査部門とのコミュニケーションの状況、監査結果報告等について、総合的に勘案して評価しております。

監査報酬の内容等

イ 監査公認会計士等に対する報酬

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬	非監査業務に基づく報酬	監査証明業務に基づく報酬	非監査業務に基づく報酬
提出会社	58		59	
連結子会社				
計	58		59	

ロ 会計監査人と同一ネットワーク(Ernst & Young)に対する報酬(イを除く)

(単位:百万円)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬	非監査業務に基づく報酬	監査証明業務に基づく報酬	非監査業務に基づく報酬
提出会社	0	2	0	15
連結子会社	15	3	17	1
計	16	5	18	16

(注) 1 当社は非監査業務として、子会社株式の新規取得に関する業務及び海外支店に対する税務監査等の業務に対して対価を支払っております。

2 連結子会社は非監査業務として、税務監査等の業務に対して対価を支払っております。

ハ 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する報酬の額の決定に関する方針は、当社の規模、業務の特性、監査日数等を勘案し、監査人と協議の上、監査等委員会の同意を得て決定することとしております。

ニ 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査等委員会は、社内関係部署及び会計監査人から必要な資料を入手し、報告を受けた上で、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算定根拠等を検証した結果、会計監査人の報酬等の額について、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

取締役（監査等委員であるものを除く。）及び監査等委員である取締役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

当社は、2015年6月25日開催の定時株主総会において、取締役（監査等委員であるものを除く。）の報酬額を月額30万円以内（使用人兼務取締役の使用人分は含まない。）、監査等委員である取締役の報酬額を月額50万円以内と決議いただいております。当該決議時の取締役（監査等委員であるものを除く。）は11名、監査等委員である取締役は4名です。なお、定款において、取締役（監査等委員であるものを除く。）の員数を15名以内、監査等委員である取締役の員数を5名以内と定めております。

取締役（監査等委員であるものを除く。）の個人別の報酬等の内容に係る決定方針（以下、「決定方針」という。）に関する事項

a 決定方針の決定方法

2023年6月28日開催の臨時取締役会において設置いたしました取締役会の諮問機関である任意の指名・報酬委員会において改定案を審議し、2024年6月26日開催の臨時取締役会において、決定方針を決議いたしました。

b 決定方針の内容の概要

イ 基本方針

取締役（監査等委員であるものを除く。）の報酬は、「固定報酬」並びに株主総会の決議を前提に役員退職慰労金規程に基づき支給する「退職慰労金」とで構成し、その全額を金銭とすることを基本方針とする。

ロ 取締役（監査等委員であるものを除く。）の固定報酬に係る個人別の報酬の額の決定に関する方針（報酬を与える時期または条件の決定に関する方針を含む。）

取締役（監査等委員であるものを除く。）の個人別の報酬は、月額の固定報酬とし、株主総会で報酬総額の範囲を決議し、以下の手続きで決定する。

指名・報酬委員会の要請により、各取締役の果たすべき責務の評価・役位・就任年数・業績等を勘案した基準をもとに、代表取締役社長、取締役副社長及び人事管掌役員で審議して原案を作成し、指名・報酬委員会に原案を説明、提案する。

指名・報酬委員会は原案を審議し、取締役会に答申する。

取締役会の決議をもって一任を受けた代表取締役社長 松田芳明は、指名・報酬委員会の答申を尊重し、最終的に個人別の報酬額を各取締役に通知する。なお、個人別の報酬額の一任理由は、あらかじめ審議された原案をもとに各取締役の評価を最終的に決定するには、代表取締役社長が適していると判断したためです。

指名・報酬委員会の答申と異なる決定をした場合には、代表取締役社長はその理由を指名・報酬委員会に説明するものとする。

ハ 取締役（監査等委員であるものを除く。）の退職慰労金に係る個人別の報酬の額の決定に関する方針（退職慰労金を与える時期または条件の決定に関する方針を含む。）

取締役（監査等委員であるものを除く。）の退職慰労金の個人別支給金額は、株主総会での決議を前提として、以下の手続きで決定し、退職慰労金の支給時期は、役員退職慰労金規程に基づき、退任した日の翌月末に一括して支払う。

指名・報酬委員会の要請により、役員退職慰労金規程に基づき、代表取締役社長、取締役副社長及び人事管掌役員で審議して原案を作成し、指名・報酬委員会に原案を説明、提案する。

指名・報酬委員会は原案を審議し、取締役会に答申する。

株主総会の決議に基づき、取締役会決議をもって一任を受けた代表取締役社長 松田芳明が指名・報酬委員会の答申を尊重し、最終的に個人別の支給金額を各取締役に通知する。

指名・報酬委員会の答申と異なる決定をした場合には、代表取締役社長はその理由を指名・報酬委員会に説明するものとする。

ニ 当該事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容が決定方針に沿うものであると取締役会が判断した理由

取締役（監査等委員であるものを除く。）の個人別の報酬等の内容の決定に当たっては、決定方針に基づき実施したことを2024年7月開催の取締役会において代表取締役社長から報告を受け、決定方針に沿うものであると判断しております。

ホ 当該事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容の決定過程における、取締役会及び指名・報酬委

委員会の活動内容

2024年6月19日開催の指名・報酬委員会において、取締役（監査等委員であるものを除く。）の個人別の報酬等について審議・答申を行い、2024年6月26日開催の臨時取締役会において、代表取締役社長松田芳明に決定を一任することを決議し、2024年7月9日開催の取締役会において、代表取締役社長松田芳明より、指名・報酬委員会の答申を尊重し最終的に個人別の報酬額を各取締役に通知しことを報告しております。

監査等委員である取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針（以下、「決定方針」という。）に関する事項

a 決定方針の決定方法

2024年6月26日開催の臨時取締役会において、監査等委員である取締役の報酬に関する決定方針を決議いたしました。

b 決定方針の内容の概要

イ 基本方針

監査等委員である取締役の報酬は、「固定報酬」のみで構成し、その全額を金銭とすることを基本方針とする。

ロ 監査等委員である取締役の固定報酬の個人別の報酬の額の決定に関する方針（報酬を与える時期または条件の決定に関する方針を含む。）

監査等委員である取締役の個人別の報酬は、株主総会の決議による報酬総額の限度内で、以下の手続きで決定する。

株主総会の決議による報酬総額の限度内で、監査等委員報酬に関する方針に基づき、監査等委員の果たすべき責務の評価・経験・専門的な知見等を総合的に勘案し、監査等委員会にて原案を作成し、指名・報酬委員会に原案を説明・提案する。

指名・報酬委員会は原案を審議し、審議した結果を監査等委員会に答申し、答申を参考に監査等委員の全員の合意に基づき決定する。

指名・報酬委員会の答申と異なる決定をした場合には、監査等委員会はその理由を指名・報酬委員会に説明するものとする。

なお、2024年6月26日開催の定時株主総会において、監査等委員である取締役に対する退職慰労金制度を廃止することを決議しております。

また、本制度廃止時に在任する監査等委員である取締役4名に対しては、在任中の功労に報いるため、当社所定の基準により相当の範囲内で退職慰労金を打ち切り支給することを2024年6月26日開催の定時株主総会において、決議しております。

当社は、2025年5月9日開催の取締役会において、役員報酬制度の見直しを行い、役員退職慰労金制度の廃止及び株式報酬制度の導入を決議し、取締役（監査等委員であるものを除く。）に対する退職慰労金制度廃止に伴う打ち切り支給に関する議案、並びに、取締役等に対する株式報酬制度の導入に関する議案を2025年6月25日開催予定の定時株主総会（以下、「本株主総会」という。）に付議することといたしました。当該議案が承認可決された場合、取締役（監査等委員であるものを除く。）の報酬は、原則、「固定報酬」及び「株式報酬」とで構成されることとなります。

当社が導入を予定する株式報酬制度は、役員報酬BIP信託と称される仕組みを用いて、当社の取締役（社外取締役、監査等委員である取締役及び国内非居住者を除く。）及び当社と委任契約を締結している執行役員（国内非居住者を除く。）（以下、併せて「取締役等」という。）を対象に、取締役等の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性を明確にし、取締役等が株価の変動によるリターンとリスクを株主と共有することで、中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意識を高めることを目的としており、あらかじめ制定された株式交付規程に基づき、役位等に応じて原則退任時に当社株式及び当社株式の換価処分金相当額の金銭を交付及び給付するものとなります。

本株主総会では、2015年6月25日開催の定時株主総会において決議いただいた取締役（監査等委員であるものを除く。）の月額報酬枠とは別枠で、取締役等に対して株式報酬制度に係る報酬枠を設定する内容を含み、ご承認をお願いする予定です。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	左記のうち、 非金銭報酬等	
取締役(監査等委員及び 社外取締役を除く。)	213	166	-	46	-	8
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く。)	-	-	-	-	-	-
社外役員	36	31	-	4	-	4

(注) 1 退職慰労金は、当事業年度において計上した役員退職慰労引当金44百万円及び功労加算金6百万円であります。

2 期末日現在の取締役は10名であります。

提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額(百万円)	対象となる役員の員数(名)	内容
40	6	使用人としての給与であります。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、もっぱら株式の価値の変動または株式に係る配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式に区分し、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

イ 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、事業及び取引における良好な関係が維持強化され、企業価値の向上につながる企業の株式を保有の対象とし、保有の目的が達成されないと考える投資株式については、可能な限り速やかに処分し縮減することとしています。

現在、当社が保有する全ての上場株式は、純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）であります。取締役会では、每期、保有する株式の銘柄ごとに取引高による定量的な効果と、経営戦略やシナジー等の定性的な効果及び中長期的な発展の期待を加えて検証し、総合的に保有の適否を決定しております。その中で、当社グループの持続的成長と中長期的な企業価値の向上に寄与しないと判断した株式については、相手先企業との対話等を行い、改善が見込めない株式については適切に売却いたします。

ロ 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	13	134
非上場株式以外の株式	35	1,683

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る 取得価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式			
非上場株式以外の株式	6	10	取引先持株会を通じた株式の取得

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

八 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果（注）及び 株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
キューピー株式 会社	104,520	104,520	取引先との関係強化による収益拡大のため保 有しており、主に食品関連事業における取引 を行っております。	無
	305	295		
株式会社村田製 作所	112,300	112,300	取引先との関係強化による収益拡大のため保 有しており、主に貴金属関連事業における取 引を行っております。	無
	258	317		
養命酒製造株式 会社	75,000	75,000	食品関連事業における取引先との事業関係の 維持強化のため保有しております。	有
	220	141		
株式会社ニッス イ	145,726	145,726	取引先との関係強化による収益拡大のため保 有しており、主に食品関連事業における取引 を行っております。	有
	131	139		
株 式 会 社 三 菱 UFJ フ ィ ナ ン シャル・グルー プ	42,880	42,880	資金調達等の財務活動の円滑化及び世界の金 融情勢・規制情報収集のための関係強化を目 的として保有しております。	無
	86	66		
株式会社ニッポ ン	30,167	29,119	取引先とのさらなる関係強化による収益拡大 を目的に、取引先持株会を通じた株式の取得 を行っており、株式数が増加しております。 主に食品関連事業における取引を行っており ます。	無
	65	69		
阪和興業株式会 社	13,306	12,665	取引先とのさらなる関係強化による収益拡大 を目的に、取引先持株会を通じた株式の取得 を行っており、株式数が増加しております。 主に食品関連事業における取引を行っており ます。	無
	65	75		
株式会社三井住 友フィナンシャル グループ	15,666	5,222	資金調達等の財務活動の円滑化及び世界の金 融情勢・規制情報収集のための関係強化を目 的として保有しております。 株式分割実施のため株式数が増加しておりま す。	無
	59	46		
株式会社みずほ フィナンシャル グループ	13,462	13,462	資金調達等の財務活動の円滑化及び世界の金 融情勢・規制情報収集のための関係強化を目 的として保有しております。	無
	54	41		
株式会社ブルボ ン	20,367	19,949	取引先とのさらなる関係強化による収益拡大 を目的に、取引先持株会を通じた株式の取得 を行っており、株式数が増加しております。 主に食品関連事業における取引を行っており ます。	無
	51	47		
ENEOS ホ ー ル ディングス株式 会社	64,261	64,261	取引先との関係強化による収益拡大のため保 有しており、主に貴金属関連事業における取 引を行っております。	無
	50	46		
はごろもフーズ 株式会社	13,893	13,340	取引先とのさらなる関係強化による収益拡大 を目的に、取引先持株会を通じた株式の取得 を行っており、株式数が増加しております。 主に食品関連事業における取引を行っており ます。	無
	45	43		
豊田通商株式会 社	15,111	5,037	取引先との関係強化による収益拡大のため保 有しており、主に食品関連事業における取引 を行っております。 株式分割実施のため株式数が増加しておりま す。	無
	37	51		
三菱電機株式会 社	11,000	11,000	取引先との関係強化による収益拡大のため保 有しており、主に貴金属関連事業における取 引を行っております。	無
	29	27		
株式会社中村屋	9,500	9,500	取引先との関係強化による収益拡大のため保 有しており、主に食品関連事業における取引 を行っております。	有
	29	29		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果（注）及び 株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
株式会社あじかん	24,057	23,424	取引先とのさらなる関係強化による収益拡大を目的に、取引先持株会を通じた株式の取得を行っており、株式数が増加しております。主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	29	27		
株式会社プラザホールディングス	16,140	16,140	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に貴金属関連事業における取引を行っております。	無
	28	36		
富士フィルムホールディングス株式会社	9,000	3,000	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に貴金属関連事業における取引を行っております。株式分割実施のため株式数が増加しております。	無
	25	30		
株式会社なとり	12,000	12,000	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	24	25		
不二製油グループ本社株式会社	4,831	4,831	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	14	11		
富士通株式会社	4,110	411	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に貴金属関連事業における取引を行っております。株式分割実施のため株式数が増加しております。	無
	10	10		
味の素株式会社	1,811	1,811	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	10	10		
一正蒲鉾株式会社	13,000	13,000	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	9	9		
日本新薬株式会社	1,731	1,731	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	6	7		
明治ホールディングス株式会社	1,864	1,864	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	6	6		
林兼産業株式会社	7,293	7,293	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	3	4		
協和キリン株式会社	1,597	1,597	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に貴金属関連事業における取引を行っております。	無
	3	4		
石井食品株式会社	10,000	10,000	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	3	3		
ハウス食品グループ本社株式会社	1,100	1,100	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	2	3		
江崎グリコ株式会社	605	605	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	2	2		
日本ハム株式会社	500	500	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	2	2		
トレックス・セミコンダクター株式会社	2,011	1,560	取引先とのさらなる関係強化による収益拡大を目的に、取引先持株会を通じた株式の取得を行っており、株式数が増加しております。	無
	2	2		
日東ベスト株式会社	3,000	3,000	取引先との関係強化による収益拡大のため保有しており、主に食品関連事業における取引を行っております。	無
	2	2		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果（注）及び 株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
福留ハム株式会 社	308	308	取引先との関係強化による収益拡大のため保 有しており、主に食品関連事業における取引 を行っております。	無
	0	0		
株式会社不二家	100	100	取引先との関係強化による収益拡大のため保 有しており、主に食品関連事業における取引 を行っております。	無
	0	0		

(注) 当社は、特定投資株式における定量的な保有効果を記載することが困難であるため、保有の合理性を検証する方法について「(5) [株式の保有状況] [保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式] イ [保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容]」に記載しております。なお、2025年3月31日を基準日とした検証の結果、保有している全株式は、保有の方針に沿ったものであることを取締役会において確認しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

当事業年度の前4事業年度及び当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し情報収集するとともに、研修会へ参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (2025年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,568	12,878
受取手形及び売掛金	¹ 31,990	¹ 34,088
商品及び製品	28,183	34,344
仕掛品	688	999
原材料及び貯蔵品	19,471	25,610
未収入金	1,981	1,413
その他	5,433	6,802
貸倒引当金	16	14
流動資産合計	102,300	116,124
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,750	21,120
減価償却累計額	7,197	8,242
建物及び構築物（純額）	10,553	³ 12,878
機械装置及び運搬具	15,285	20,299
減価償却累計額	11,884	15,407
機械装置及び運搬具（純額）	3,401	³ 4,892
土地	16,666	³ 17,027
リース資産	1,775	1,637
減価償却累計額	968	979
リース資産（純額）	806	658
建設仮勘定	2,636	2,079
その他	1,750	1,927
減価償却累計額	1,480	1,605
その他（純額）	269	322
有形固定資産合計	34,335	37,858
無形固定資産		
その他	2,135	3,028
無形固定資産合計	2,135	3,028
投資その他の資産		
投資有価証券	² 6,984	² 7,894
繰延税金資産	310	445
その他	2,926	3,619
減価償却累計額	28	49
その他（純額）	2,897	3,569
貸倒引当金	26	20
投資その他の資産合計	10,166	11,889
固定資産合計	46,637	52,775
資産合計	148,937	168,900

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	12,397	16,176
短期借入金	15,559	11,542
1年内返済予定の長期借入金	3,002	³ 4,108
リース債務	288	228
未払法人税等	640	2,796
賞与引当金	1,061	1,238
未払金	1,253	994
前受金	7,515	7,666
その他	2,796	3,860
流動負債合計	44,516	48,613
固定負債		
社債	-	100
長期借入金	10,021	³ 17,047
リース債務	534	446
繰延税金負債	135	62
役員退職慰労引当金	789	795
執行役員退職慰労引当金	23	30
退職給付に係る負債	1,430	1,510
その他	111	159
固定負債合計	13,046	20,152
負債合計	57,562	68,765
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,559	3,559
資本剰余金	4,008	4,008
利益剰余金	81,793	89,565
自己株式	1,395	1,396
株主資本合計	87,965	95,737
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	810	818
繰延ヘッジ損益	630	900
為替換算調整勘定	2,948	3,960
退職給付に係る調整累計額	21	125
その他の包括利益累計額合計	3,149	4,005
非支配株主持分	259	391
純資産合計	91,374	100,134
負債純資産合計	148,937	168,900

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
売上高	1 360,527	1 468,841
売上原価	2 330,446	2 433,638
売上総利益	30,080	35,202
販売費及び一般管理費	3, 4 20,724	3, 4 22,526
営業利益	9,356	12,676
営業外収益		
受取利息	14	20
受取配当金	33	38
持分法による投資利益	850	1,089
為替差益	340	-
その他	247	329
営業外収益合計	1,487	1,478
営業外費用		
支払利息	193	375
為替差損	-	180
その他	98	74
営業外費用合計	291	631
経常利益	10,551	13,523
税金等調整前当期純利益	10,551	13,523
法人税、住民税及び事業税	2,933	4,099
法人税等調整額	300	121
法人税等合計	3,234	3,977
当期純利益	7,317	9,545
非支配株主に帰属する当期純利益	30	89
親会社株主に帰属する当期純利益	7,286	9,456

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
当期純利益	7,317	9,545
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	233	8
繰延ヘッジ損益	536	266
為替換算調整勘定	604	1,051
退職給付に係る調整額	775	107
持分法適用会社に対する持分相当額	123	2
その他の包括利益合計	1,200	898
包括利益	8,517	10,444
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	8,466	10,312
非支配株主に係る包括利益	50	132

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2023年 4 月 1 日至 2024年 3 月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,559	4,008	75,939	995	82,512
当期変動額					
剰余金の配当			1,432		1,432
親会社株主に帰属する 当期純利益			7,286		7,286
自己株式の取得				400	400
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	5,853	400	5,453
当期末残高	3,559	4,008	81,793	1,395	87,965

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	577	91	2,235	751	1,969	166	84,648
当期変動額							
剰余金の配当							1,432
親会社株主に帰属する 当期純利益							7,286
自己株式の取得							400
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	233	539	713	773	1,180	93	1,273
当期変動額合計	233	539	713	773	1,180	93	6,726
当期末残高	810	630	2,948	21	3,149	259	91,374

当連結会計年度(自 2024年 4 月 1 日至 2025年 3 月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,559	4,008	81,793	1,395	87,965
当期変動額					
剰余金の配当			1,684		1,684
親会社株主に帰属する 当期純利益			9,456		9,456
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	7,771	0	7,771
当期末残高	3,559	4,008	89,565	1,396	95,737

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	810	630	2,948	21	3,149	259	91,374
当期変動額							
剰余金の配当							1,684
親会社株主に帰属する 当期純利益							9,456
自己株式の取得							0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	8	269	1,012	104	855	132	988
当期変動額合計	8	269	1,012	104	855	132	8,759
当期末残高	818	900	3,960	125	4,005	391	100,134

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	10,551	13,523
減価償却費	2,483	2,894
貸倒引当金の増減額（ は減少）	27	8
賞与引当金の増減額（ は減少）	31	160
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	364	234
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	0	24
執行役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	1	10
受取利息及び受取配当金	48	58
支払利息	193	375
持分法による投資損益（ は益）	850	1,089
売上債権の増減額（ は増加）	6,231	1,458
未収入金の増減額（ は増加）	76	572
棚卸資産の増減額（ は増加）	2,565	12,148
仕入債務の増減額（ は減少）	1,364	3,417
未払金の増減額（ は減少）	241	568
その他	1,026	1,210
小計	6,611	4,670
利息及び配当金の受取額	174	314
利息の支払額	149	373
法人税等の支払額	4,802	2,067
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,833	2,542
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	6,530	3,605
有形固定資産の売却による収入	0	2
無形固定資産の取得による支出	1,243	473
投資有価証券の取得による支出	14	10
投資有価証券の売却による収入	61	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	2 2,124
その他	228	32
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,956	6,243
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	13,246	3,878
長期借入れによる収入	-	10,100
長期借入金の返済による支出	3,102	4,080
配当金の支払額	1,432	1,684
自己株式の取得による支出	400	0
その他	226	245
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,084	210
現金及び現金同等物に係る換算差額	725	470
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	2,687	3,020
現金及び現金同等物の期首残高	11,761	14,449
現金及び現金同等物の期末残高	1 14,449	1 11,428

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

子会社は全て連結されております。

当該連結子会社は、マツダ流通(株)、マツダ環境(株)、日本メディカルテクノロジー(株)、北海道アオキ化学(株)、ゼロ・ジャパン(株)、ガルフ食品(株)、(株)山陽レック、(株)フラップリソース、Matsuda Sangyo(Thailand) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo (Philippines) Corporation、Matsuda Sangyo (Singapore) Pte.Ltd.、Matsuda Sangyo (Malaysia) Sdn.Bhd.、Matsuda Sangyo Trading (Qingdao) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo Trading (Thailand) Co.,Ltd.、South Gate Realty Holding Inc.、Matsuda Sangyo (Vietnam) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo Trading (Vietnam) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo (Taiwan) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo (Korea) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo Trading India Private Limited、PT Matsuda Sangyo Trading Indonesia及びSEAM Holdings (Thailand) Co.,Ltd.の22社であります。

当連結会計年度において連結子会社(株)山陽レック及び(株)フラップリソースは2025年2月28日付の株式取得により当社の子会社となりましたので、連結の範囲に含めております。

2 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社数 1社

当該関連会社は、日鉄マイクロメタル株式会社であります。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうちMatsuda Sangyo (Thailand) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo (Philippines) Corporation、Matsuda Sangyo (Singapore) Pte.Ltd.、Matsuda Sangyo (Malaysia) Sdn.Bhd.、Matsuda Sangyo Trading (Qingdao) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo Trading (Thailand) Co.,Ltd.、South Gate Realty Holding Inc.、Matsuda Sangyo (Vietnam) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo Trading (Vietnam) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo (Taiwan) Co.,Ltd.、Matsuda Sangyo (Korea) Co.,Ltd.、PT Matsuda Sangyo Trading Indonesia及びSEAM Holdings (Thailand) Co.,Ltd.の決算日は12月31日であります。

なお、海外子会社のうちMatsuda Sangyo Trading India Private Limitedの決算日は3月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの…時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、
売却原価は、移動平均法により算定)

市場価格のない株式等…移動平均法による原価法

棚卸資産

通常の販売目的で保有する棚卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

貴金属関連事業

商品…先入先出法

製品及び仕掛品

貴金属地金 …先入先出法

工程貴金属地金 …総平均法

化成品 …先入先出法

原材料…個別法

食品関連事業

商品…先入先出法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社は定率法を、また在外連結子会社は定額法を採用しております。

ただし、当社及び国内連結子会社は1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～38年

機械装置及び運搬具 2～7年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な償却年数は以下のとおりであります。

ソフトウェア(自社利用分) 5年(社内における利用可能期間)

その他 6～10年(効果が発現すると見積られる期間)

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

国際財務報告基準適用在外連結子会社における使用権資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく期末要支給額の100%を計上しております。

執行役員退職慰労引当金

執行役員の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づき当連結会計年度末における要支給額の100%を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

a 貴金属地金他

当社グループでは主として地金市場ヘインゴットなどの貴金属地金の販売や、エレクトロニクス業界などへの化成品等の貴金属製品の販売を行っております。当該取引においては、出荷時から顧客への支配移転時までの期間が通常の期間であることから、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項の適用により出荷時点で履行義務が充足され、収益の認識をしております。

また、鉱山リサイクルなど受入れ先の検収を要するものについては検収完了時点で履行義務が充足され、収益の認識をしております。

b 電子材料

当社グループでは主としてエレクトロニクス業界への貴金属商品の販売を行っております。

当該取引においては、出荷時から顧客への支配移転時までの期間が通常の期間であることから、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項の適用により出荷時点で履行義務が充足され、収益の認識をしております。

一部の販売については他の当事者が関与しており、製造・出荷の一連の作業は当該他の当事者により行われており、当社グループが在庫リスク及び価格設定の裁量権を有していないものについては、当該他の当事者により商品が提供されるように手配することが当社グループの履行義務であることから、代理人として取引を行っている判断しており、代理人取引と判断したものについては純額で収益を認識しております。

c 食品加工原材料

当社グループでは、すりみ・エビ・イカなどの水産品やチキン・ポーク・ビーフ・卵などの畜産品、乾燥野菜や冷凍野菜などの農産品等を加工食品メーカーや中食・外食業界などへ販売しております。

当該取引の主たるものは、出荷時から顧客への支配移転時までの期間が通常の期間であることから、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項の適用により出荷時点で履行義務が充足され、収益の認識をしております。

なお、取引形態により他の当事者が関与して調達・出荷等の一連の作業が当該他の当事者に行われ、当社グループが在庫リスク及び価格設定の裁量権を有していないものについては、当該他の当事者により商品が提供されるように手配することが当社グループの履行義務であることから、代理人として取引を行っている判断しており、代理人取引と判断したものについては純額で収益を認識しております。

また、外部へ原材料を有償支給し加工している取引については有償支給取引と判断しており、当該支給品の譲渡に係る収益は認識しておりません。

d その他

主として当社グループが行っている様々な業界から排出される廃酸、廃アルカリの無害化中間処理など、産業廃棄物の収集運搬・処理となります。当該取引においては、処理完了時点で履行義務が充足され、収益を認識しております。

当社グループの取引に関する支払条件は、通常、短期のうちに支払条件が到来し、契約に重大な金融要素は含まれておりません。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を、金利スワップについて特例処理の要件を満たしている場合には特例処理を、金利スワップの特例処理の要件を満たし、かつ振当処理の要件を満たす金利通貨スワップ取引については、一体処理（特例処理、振当処理）を行っております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

デリバティブ取引(為替予約取引、貴金属及び非鉄金属商品先渡取引、金利スワップ及び金利通貨スワップ)

ヘッジ対象

相場変動等による損失の可能性があり、相場変動等が評価に反映されていないもの及びキャッシュ・フローが固定されその変動が回避されるもの、並びに借入金の利息

ヘッジ方針

取引契約時に為替予約による円貨額及び貴金属及び非鉄金属商品先渡取引による売却価額を確定させ、為替リスク及び相場変動リスクについてヘッジすることを原則としております。

また、金利変動リスク及び為替変動リスクをヘッジする目的で金利スワップや金利通貨スワップ取引を行っております。

ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ手段の変動額の累計額と、ヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性の判定を行っております。

なお、特例処理によっている金利スワップ及び一体処理によっている金利通貨スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

食品関連事業に係る棚卸資産（以下、食品商品）の評価

(1) 当連結会計年度の連結貸借対照表に計上した金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
商品及び製品	28,183百万円	34,344百万円

前連結会計年度末における食品商品の評価損金額は191百万円、当連結会計年度末における食品商品の評価損金額は121百万円であります。

前連結会計年度末における商品及び製品は28,183百万円であり、そのうち食品商品は16,245百万円（57.6%）であります。また、当連結会計年度末における商品及び製品は34,344百万円であり、そのうち食品商品は19,236百万円（56.0%）であります。これらは主として食品メーカーへ販売する原料となります。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

「第一部【企業情報】第5【経理の状況】1【連結財務諸表等】【注記事項】（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）4 会計方針に関する事項（1）重要な資産の評価基準及び評価方法 棚卸資産」に記載のとおり、棚卸資産の連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しており、期末における正味売却価額が取得原価を下回っている場合には、当該正味売却価額をもって連結貸借対照表価額としております。

正味売却価額は直近に販売実績があるものは販売実績価額をベースとし、販売実績がないものは、販売先毎の各業界における特有の状況、賞味期限までの在庫期間、市況の変化等を鑑みて見込販売価額をベースとして算出しております。

将来の予測は不確実性を伴い、市況が悪化した場合には評価損が発生するほか、食品という性質上、賞味期限による廃棄リスクなど、金額の見積りに重要な影響を及ぼす可能性があります。

(会計方針の変更)

（「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当連結会計年度の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20 - 3 項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65 - 2 項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当連結会計年度の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(未適用の会計基準等)

- ・「リースに関する会計基準」（企業会計基準第34号 2024年9月13日）
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日）

ほか、関連する企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告及び移管指針の改正

(1) 概要

国際的な会計基準と同様に、借手の全てのリースについて資産・負債を計上する等の取扱いを定めるもの。

(2) 適用予定日

2028年3月期の期首から適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用に係る影響

「リースに関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中でありませす。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「仕入割引」「受取保険金」及び「補助金収入」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「仕入割引」12百万円、「受取保険金」24百万円、「補助金収入」26百万円、「その他」182百万円は、「その他」247百万円として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外費用」の「固定資産除却損」及び「賃貸収入原価」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」に表示していた「固定資産除却損」35百万円、「賃貸収入原価」32百万円、「その他」30百万円は、「その他」98百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

- 1 受取手形及び売掛金のうち、顧客との契約から生じた債権の金額は、それぞれ以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
受取手形	296	205
売掛金	31,693	33,883

- 2 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
投資有価証券(株式)	5,172	6,004

- 3 担保資産及び担保付債務

担保資産(帳簿価額)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
土地	-	225 (-)
建物及び構築物	-	623 (418)
機械装置及び運搬具	-	760 (760)
合計	-	1,610 (1,178)

(注) 1 上記のうち、()内書は、工場財団抵当によるものを示しております。

2 上記資産について、極度額2,880百万円の根抵当権を設定しております。

担保付債務(帳簿価額)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
長期借入金 (1年以内に返済予定の長期借入金を含む)	-	2,111 (2,066)
合計	-	2,111 (2,066)

(注) 上記のうち、()内書は、工場財団による担保設定分を示しております。

- 4 当社は資金調達の機動性を高めるため、株式会社みずほ銀行をアレンジャーとする計4行の銀行との間に借入枠(コミットメントライン)を設定しております。なお、当連結会計年度末における当該借入枠に基づく借入の実行状況は次のとおりであります。

(単位：百万円)		
	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
借入枠	3,000	3,000
借入実行残高	-	-
差引借入未実行残高	3,000	3,000

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、「第一部[企業情報] 第5[経理の状況] 1[連結財務諸表等] [注記事項] (収益認識関係)

1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

- 2 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)		
	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
売上原価	224	141

売上原価の算定過程に含まれる期末棚卸高は、収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、棚卸資産評価損が売上原価に含まれております。

- 3 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

(単位：百万円)		
	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
運送費及び保管費	3,226	3,396
支払手数料	2,113	2,956
貸倒引当金繰入額	7	2
給料手当及び賞与	5,826	6,032
賞与引当金繰入額	725	839
退職給付費用	561	483
役員退職慰労引当金繰入額	58	44
執行役員退職慰労引当金繰入額	6	6
減価償却費	932	1,093

- 4 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

(単位：百万円)		
	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
一般管理費	313	397

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	335	27
組替調整額	-	-
法人税等及び税効果調整前	335	27
法人税等及び税効果額	102	19
その他有価証券評価差額金	233	8
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	1,203	1,236
組替調整額	428	1,620
法人税等及び税効果調整前	775	384
法人税等及び税効果額	238	118
繰延ヘッジ損益	536	266
為替換算調整勘定		
当期発生額	604	1,051
組替調整額	-	-
為替換算調整額	604	1,051
退職給付に係る調整額		
当期発生額	640	166
組替調整額	477	321
法人税等及び税効果調整前	1,118	154
法人税等及び税効果額	342	47
退職給付に係る調整額	775	107
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	123	2
その他の包括利益合計	1,200	898

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	26,908,581	-	-	26,908,581

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	822,870	168,456	-	991,326

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加	256株
取締役会決議による自己株式取得による増加	168,200株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年 6 月28日 定時株主総会	普通株式	652	25.00	2023年 3 月31日	2023年 6 月29日
2023年11月10日 取締役会	普通株式	780	30.00	2023年 9 月30日	2023年12月 6 日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年 6 月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	777	30.00	2024年 3 月31日	2024年 6 月27日

当連結会計年度(自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	26,908,581	-	-	26,908,581

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	991,326	127	-	991,453

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加	127株
-----------------	------

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年6月26日 定時株主総会	普通株式	777	30.00	2024年3月31日	2024年6月27日
2024年11月12日 取締役会	普通株式	907	35.00	2024年9月30日	2024年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2025年6月25日開催の定時株主総会の議案として、次のとおり付議する予定です。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年6月25日 定時株主総会 (予定)	普通株式	利益剰余金	1,036	40.00	2025年3月31日	2025年6月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
現金及び預金勘定	14,568	12,878
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	119	1,449
現金及び現金同等物	14,449	11,428

- 2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

株式の取得により新たに株式会社山陽レック及び株式会社フラップリソースを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりです。

(単位:百万円)

流動資産	2,088
固定資産	2,425
のれん	830
流動負債	718
固定負債	2,025
株式の取得価額	2,599
現金及び現金同等物	475
差引: 連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2,124

(注) 上記の金額は、当連結会計年度末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に貴金属関連事業及び食品関連事業を行うための設備投資計画や運転資金需要に照らして必要な資金を主に銀行借入により調達しております。一時的な余資は安全性の高い短期の金融商品（現金同等物）で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述のリスクを回避するために利用しており、投機目的の取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの債権管理規程に従い、取引先毎の期日管理及び残高管理を行うとともに、取引先の信用状況を原則として1年毎に把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役会に報告されております。

営業債務である買掛金は、すべて1年以内の支払期日であります。借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は営業取引並びに設備投資に係る資金調達であります。

貴金属関連事業ではアジアでの海外事業を展開していることから、外貨建ての営業債権・債務が為替の変動リスクに晒されております。食品関連事業では全世界から主として米ドル建てで食材を調達しており、予定取引を含む営業債務が為替の変動リスクに晒されております。また、貴金属関連事業では貴金属及び非鉄金属の売買（原材料調達並びに製商品販売）に伴う相場変動リスクに晒されております。これらのリスクを軽減する目的で、為替予約取引及び商品先渡取引を利用しております。また、長期借入金の一部に対し金利変動リスク及び為替変動リスクをヘッジするため金利スワップ取引や金利通貨スワップ取引を利用しております。デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い銀行と商社とのみ取引を行っております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは各社が月次に資金繰計画を作成し、これを親会社がモニターするなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、(デリバティブ取引関係)注記事項におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(2024年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券			
其他有価証券(2)	1,665	1,665	-
資産計	1,665	1,665	-
(1) 長期借入金(1 年以内に返済予定を含む)	13,023	12,850	172
負債計	13,023	12,850	172
デリバティブ取引(3)	910	910	-

1 現金は注記を省略しており、預金、受取手形及び売掛金、買掛金、短期借入金は短期間で決済されるため、時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

2 市場価格のない株式等は、「(1)投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式	5,318

非上場株式について減損処理に該当する事項はありません。

3 デリバティブ取引は、債権・債務を差し引きした合計を表示しております。

当連結会計年度(2025年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券			
其他有価証券(2)	1,748	1,748	-
資産計	1,748	1,748	-
(1) 長期借入金(1 年以内に返済予定を含む)	21,156	19,832	1,324
負債計	21,156	19,832	1,324
デリバティブ取引(3)	1,296	1,296	-

1 現金は注記を省略しており、預金、受取手形及び売掛金、買掛金、短期借入金は短期間で決済されるため、時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

2 市場価格のない株式等は、「(1)投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式	6,146

非上場株式について減損処理に該当する事項はありません。

3 デリバティブ取引は、債権・債務を差し引きした合計を表示しております。

(注1)投資有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

投資有価証券

保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「第一部 [企業情報] 第5 [経理の状況] 1 [連結財務諸表等] [注記事項](有価証券関係)」を参照ください。

デリバティブ取引

「第一部 [企業情報] 第5 [経理の状況] 1 [連結財務諸表等] [注記事項](デリバティブ取引関係)」を参照ください。

(注2)満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2024年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2025年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(公社債)	-	20	9	-

(注3)長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2024年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	3,002	2,477	2,114	1,614	1,596	2,220

当連結会計年度(2025年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	4,108	3,745	3,244	3,206	2,364	4,485

3 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産または負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接または間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

前連結会計年度（2024年3月31日）

（単位：百万円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	1,665	-	-	1,665
デリバティブ取引				
通貨関連	-	6	-	6
商品関連	-	989	-	989
資産計	1,665	983	-	681
デリバティブ取引				
通貨関連	-	73	-	73
負債計	-	73	-	73

当連結会計年度（2025年3月31日）

（単位：百万円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	1,718	-	-	1,718
公社債	-	29	-	29
デリバティブ取引				
通貨関連	-	2	-	2
商品関連	-	1,230	-	1,230
資産計	1,718	1,197	-	520
デリバティブ取引				
通貨関連	-	68	-	68
負債計	-	68	-	68

時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債
前連結会計年度（2024年3月31日）

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金 (1年以内に返済予定を含む)	-	12,850	-	12,850
負債計	-	12,850	-	12,850

当連結会計年度（2025年3月31日）

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金 (1年以内に返済予定を含む)	-	19,832	-	19,832
負債計	-	19,832	-	19,832

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

公社債は活発な市場がないため、取引先金融機関から提示された価格等を用いて算出しており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

デリバティブ取引

通貨関連の為替予約の時価は取引先金融機関から提示された価格等を用いて算出しており、観察可能なインプットを用いて算定していることからレベル2の時価に分類しております。

商品関連は一般に公表されている期末指標価格等に基づき公正価値を算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、取引先金融機関から提示された同様の新規借り入れを行った場合に想定される利率で割り引いて算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2024年 3 月31日)

(単位：百万円)

区分	種類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式等	1,626	478	1,147
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式等	38	47	8
合計		1,665	525	1,139

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

当連結会計年度(2025年 3 月31日)

(単位：百万円)

区分	種類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式等	1,668	487	1,181
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式等	79	89	9
合計		1,748	577	1,171

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)

(単位：百万円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	61	21	-
合計	61	21	-

当連結会計年度(自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(2024年3月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち 1年超	時価
為替予約等の振当処理	為替予約取引				
	売建 米ドル	売掛金	132	-	3
	買建 米ドル	買掛金	3,136	-	82
原則的処理方法	為替予約取引				
	売建 円	売掛金	258	-	9
	買建 米ドル	買掛金	218	-	9
合計			3,746	-	79

当連結会計年度(2025年3月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち 1年超	時価
為替予約等の振当処理	為替予約取引				
	売建 米ドル	売掛金	82	-	1
	買建 米ドル	買掛金	6,616	-	75
	ユーロ	買掛金	64	-	1
原則的処理方法	為替予約取引				
	売建 米ドル	売掛金	30	-	0
	円	売掛金	29	-	1
	買建 米ドル	買掛金	802	-	5
合計			7,625	-	66

(2) 金利関連

前連結会計年度(2024年 3 月31日)
該当事項はありません。

当連結会計年度(2025年 3 月31日)
該当事項はありません。

(3) 金利通貨関連

前連結会計年度(2024年 3 月31日)
該当事項はありません。

当連結会計年度(2025年 3 月31日)
該当事項はありません。

(4) 商品関連

前連結会計年度(2024年 3 月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち 1 年超	時価
原則的処理方法	商品先渡取引	地金取引	14,169	-	989

当連結会計年度(2025年 3 月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち 1 年超	時価
原則的処理方法	商品先渡取引	地金取引	21,749	-	1,230

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び主な連結子会社は、確定給付企業年金制度を採用しております。

また、当社は複数事業主制度の確定給付企業年金制度に加入しており、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないことから、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
退職給付債務の期首残高	5,345	5,077
勤務費用	338	332
利息費用	5	50
数理計算上の差異の発生額	534	46
退職給付の支払額	82	148
過去勤務費用の発生額	-	-
その他	4	9
退職給付債務の期末残高	5,077	5,367

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
年金資産の期首残高	3,162	3,647
期待運用収益	23	27
数理計算上の差異の発生額	106	119
事業主からの拠出額	440	454
退職給付の支払額	82	148
その他	2	3
年金資産の期末残高	3,647	3,857

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	5,077	5,367
年金資産	3,647	3,857
連結貸借対照表に計上された負債	1,430	1,510

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
勤務費用	338	332
利息費用	5	50
期待運用収益	23	27
数理計算上の差異の費用処理額	40	80
過去勤務費用の費用処理額	436	401
確定給付制度に係る退職給付費用	797	676

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（法人税等及び税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
過去勤務費用	436	401
数理計算上の差異	681	247
合計	1,118	154

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（法人税等及び税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (2025年 3 月31日)
未認識過去勤務費用	422	20
未認識数理計算上の差異	451	204
合計	29	184

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

(単位：%)

	前連結会計年度 (2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (2025年 3 月31日)
債券	34.8	43.4
株式	14.0	5.9
その他	8.4	6.7
一般勘定	42.8	44.0
合計	100.0	100.0

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

(単位：%)

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
割引率	1.0	1.0
長期期待運用収益率	0.8	0.8
予想昇給率	0.0～9.1	0.0～11.3

3 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する複数事業主制度の確定給付企業年金制度への要拠出額は、前連結会計年度80百万円、当連結会計年度64百万円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2023年3月31日現在)	当連結会計年度 (2024年3月31日現在)
年金資産の額	15,024	17,439
年金財政計算上の数理債務の額	13,024	13,104
差引額	1,999	4,334

(2) 複数事業主制度の加入者数に占める当社の割合

前連結会計年度6.3% (2024年3月31日現在)

当連結会計年度6.8% (2025年3月31日現在)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(前連結会計年度545百万円、当連結会計年度 百万円)、剰余金(前連結会計年度 百万円、当連結会計年度1,830百万円)、別途積立金(前連結会計年度2,832百万円、当連結会計年度2,503百万円)、不足金(前連結会計年度287百万円、当連結会計年度 百万円)であります。

本制度における過去勤務債務の償却方法は期間6年1ヵ月の元利均等償却であり、当社グループは連結財務諸表上、当該償却に充てられる特別掛金(前連結会計年度31百万円、当連結会計年度14百万円)を費用処理しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	58	150
賞与引当金	324	378
未払法定福利費	52	59
貸倒引当金	13	12
役員退職慰労引当金	241	250
投資有価証券等評価損	69	71
退職給付に係る負債	413	450
繰越欠損金	9	12
棚卸資産評価損	61	36
税務上の収益認識差額	77	89
繰延ヘッジ損益	278	398
棚卸資産未実現利益	88	204
その他	156	206
繰延税金資産小計	1,846	2,323
評価性引当額	366	376
繰延税金資産合計	1,479	1,947
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	357	376
繰延ヘッジ損益	0	1
関係会社の留保利益	886	1,136
その他	59	49
繰延税金負債合計	1,303	1,564
繰延税金資産の純額	175	382

(表示方法の変更)

前連結会計年度の注記において、調整項目の「その他」に含めていた「棚卸資産未実現利益」は重要性が増したため、独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の注記の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の注記において、調整項目の「その他」で表示していた244百万円は、「棚卸資産未実現利益」88百万円、「その他」156百万円として組み替えております。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率と差異発生原因の主な内訳

前連結会計年度及び当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立し、2026年4月1日以後開始する連結会計年度より「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2026年4月1日以後開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.6%から31.5%に変更し計算しております。

なお、この税率変更により、当連結会計年度の繰延税金負債(繰延税金資産を控除した金額)が17百万円、法人税等調整額が6百万円増加し、その他有価証券評価差額金が10百万円減少しております。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

当社は、2025年1月31日開催の取締役会（臨時）において、株式会社山陽レック並びに株式会社フラップリソースの全株式を取得（以下「本件株式取得」といいます。）し、子会社化することについて決議いたしました。

1 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称	株式会社山陽レック	株式会社フラップリソース
事業の内容	産業廃棄物処理及び収集運搬等	非鉄金属回収及び卸売等

企業結合を行った主な理由

当社グループは、貴金属関連事業と食品関連事業を展開しており、貴金属関連事業の環境事業においては製造業などから排出される産業廃棄物を回収し、適正な中間処理や再資源化を行うことで環境への負荷低減や保全に貢献しております。

株式会社山陽レック並びに株式会社フラップリソースは、産業廃棄物の中間処理及び再資源化に関する長年の実績とノウハウがあり、当社が取り組むリチウムイオン電池のリサイクル事業等において地域的補完も含むマーケット領域の拡大や売上の拡大に相乗効果が期待でき、本件株式取得により当社グループの成長を加速させ企業価値の向上が見込まれることから、この度の株式取得を決定いたしました。

企業結合日

2025年2月28日（みなし取得日2025年3月31日）

企業結合の法的形式

株式取得

企業結合後の名称

変更はありません。

取得した議決権比率

被取得企業の名称	株式会社山陽レック	株式会社フラップリソース
取得した議決権比率	100.0%	100.0%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2025年3月31日をみなし取得日としているため、貸借対照表のみを連結しており、当連結会計年度に係る連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

3 被取得企業の取得原価及びその内訳

被取得企業の名称	株式会社山陽レック	株式会社フラップリソース
取得の対価（現金）	2,489百万円	110百万円
取得原価	2,489百万円	110百万円

4 主要な取得関連費用の内容及び金額

被取得企業の名称	株式会社山陽レック	株式会社フラップリソース
アドバイザー費用等	111百万円	4百万円

5 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん

被取得企業の名称	株式会社山陽レック	株式会社フラップリソース
発生したのれん	824百万円	6百万円

(注) なお、のれんは、当連結会計年度末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

償却方法及び償却期間

6 年間にわたる均等償却

6 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

(単位：百万円)

	株式会社山陽レック	株式会社フラップリソース
流動資産	1,938	149
固定資産	2,353	71
資産合計	4,292	220
流動負債	694	24
固定負債	1,932	93
負債合計	2,626	117

7 企業結合が当連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

金額的重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

金額的重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(収益認識関係)

1 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	貴金属関連事業	食品関連事業	計
貴金属地金他	245,077	-	245,077
電子材料	1,971	-	1,971
食品加工原材料	-	107,000	107,000
その他	5,856	621	6,478
顧客との契約から生じる収益	252,905	107,622	360,527
外部顧客への売上高	252,905	107,622	360,527

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	貴金属関連事業	食品関連事業	計
貴金属地金他	353,269	-	353,269
電子材料	2,298	-	2,298
食品加工原材料	-	106,552	106,552
その他	6,087	632	6,719
顧客との契約から生じる収益	361,655	107,185	468,841
外部顧客への売上高	361,655	107,185	468,841

2 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「第一部[企業情報] 第5[経理の状況] 1[連結財務諸表等][注記事項](連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)(5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位:百万円)

	当連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	25,615	31,990
契約負債	5,747	7,515

顧客との契約から生じた債権は、売掛金及び受取手形であります。それぞれの期末残高は、売掛金31,693百万円、受取手形296百万円であります。

契約負債は、主として貴金属地金他での出荷基準に基づく貴金属地金の販売において、あらかじめ財の移転を約束した取引にかかわる前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当連結会計年度の期首現在の契約負債残高は、概ねすべて当連結会計年度の収益として認識されています。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、当初に予想される契約期間が1年以内であることから残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の便法を適用し注記を省略しております。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：百万円)

	当連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	31,990	34,088
契約負債	7,515	7,666

顧客との契約から生じた債権は、売掛金及び受取手形であります。それぞれの期末残高は、売掛金33,883百万円、受取手形205百万円であります。

契約負債は、主として貴金属地金他での出荷基準に基づく貴金属地金の販売において、あらかじめ財の移転を約束した取引にかかわる前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当連結会計年度の期首現在の契約負債残高は、概ねすべて当連結会計年度の収益として認識されています。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、当初に予想される契約期間が1年以内であることから残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の便法を適用し注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に製品・商品・サービス別の事業部を置き、各事業部は取り扱う製品・商品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は事業部を基礎とした製品・商品・サービス別セグメントから構成されており、「貴金属関連事業」及び「食品関連事業」の2つを報告セグメントとしております。なお、経済的特徴が概ね類似している事業セグメント(「貴金属事業」「環境事業」)を1つの報告セグメント「貴金属関連事業」に集約しております。

「貴金属関連事業」は、貴金属の回収製錬及び貴金属地金、化成品、電子材料等の販売と、産業廃棄物の収集・運搬・処理を行っております。「食品関連事業」は水産品、農産品、畜産品等の食品加工原材料の販売及びその運搬を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用している会計処理の方法と同一であります。報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（2023年4月1日 至 2024年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	貴金属関連事業	食品関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	252,905	107,622	360,527	-	360,527
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	78	78	78	-
計	252,905	107,700	360,605	78	360,527
セグメント利益	7,042	2,313	9,356	-	9,356
セグメント資産	102,290	39,989	142,279	6,657	148,937
その他の項目					
減価償却費	2,270	190	2,461	22	2,483
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	8,430	327	8,758	-	8,758

(注) 1 調整額の内容は、売上高についてはセグメント間取引及び振替高の消去であります。資産については、主に
余資運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）、投資不動産等の全社資産であります。

2 セグメント利益の合計額は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度（2024年4月1日 至 2025年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	貴金属関連事業	食品関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	361,655	107,185	468,841	-	468,841
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	36	36	36	-
計	361,655	107,221	468,877	36	468,841
セグメント利益	10,178	2,497	12,676	-	12,676
セグメント資産	119,694	43,727	163,422	5,477	168,900
その他の項目					
減価償却費	2,634	239	2,873	20	2,894
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	4,145	155	4,301	-	4,301

(注) 1 調整額の内容は、売上高についてはセグメント間取引及び振替高の消去であります。資産については、主に
余資運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）、投資不動産等の全社資産であります。

2 セグメント利益の合計額は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：百万円)

	貴金属地金他	電子材料	食品加工原材料	その他	合計
外部顧客への売上高	245,077	1,971	107,000	6,478	360,527

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	その他	合計
326,673	33,544	310	360,527

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域別に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	その他	合計
29,969	4,366	34,335

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三井物産株式会社	60,876	貴金属関連事業

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：百万円)

	貴金属地金他	電子材料	食品加工原材料	その他	合計
外部顧客への売上高	353,269	2,298	106,552	6,719	468,841

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	その他	合計
424,401	44,186	253	468,841

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域別に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	その他	合計
32,949	4,908	37,858

3 主要な顧客ごとの情報

(単位:百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三井物産株式会社	79,849	貴金属関連事業
三菱商事RtMジャパン株式会社	53,027	貴金属関連事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

前連結会計年度(自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等 *1	松田物産㈱	東京都 新宿区	50	不動産業・損害保険代理業	(被所有) 直接 13.4	土地・建物の賃貸借、損害保険取引及び事務代行	工場用地、営業所及び社宅の賃借 *3	63	前払費用	
							損害保険取引 *4	450	未払費用	7
							保証金の差入 *5		差入保証金	45
役員及びその近親者 *2	松田邦子			代表取締役社長松田芳明の実母	(被所有) 直接 3.6		金地金取引 *6	91	買掛金	

(注) 1 上記金額には、消費税等は含まれておりませんが、金地金売買の取引金額及び期末残高の未払費用には消費税等を含んでおります。

2 関連当事者の属性

*1 当社代表取締役社長松田芳明及びその近親者が100%を直接保有しております。

*2 当社代表取締役社長松田芳明の実母であります。

3 取引条件及び取引条件の決定方針等

*3 工業用地、営業所及び社宅の賃借に関する取引条件は、工場用地及び営業所については不動産鑑定士の鑑定評価に基づいて、社宅については近隣の相場に基づいて決定しております。

*4 損害保険に関する取引条件は、一般的な保険取引と同一の条件であります。

*5 保証金の差入に関する取引条件は、独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件であります。

*6 金地金売買の取引条件は、一般的取引と同様に金相場に基づいて決定しております。

当連結会計年度(自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等 *1	松田物産㈱	東京都 新宿区	50	不動産業・損害保険代理業	(被所有) 直接 13.4	土地・建物の賃貸借、損害保険取引及び事務代行	工場用地、営業所及び社宅の賃借 *2	65	前払費用	5
							損害保険取引 *3	426	未払費用	10
							保証金の差入 *4		差入保証金	45

(注) 1 上記金額には、消費税等は含まれておりませんが、期末残高には消費税等を含んでおります。

2 関連当事者の属性

*1 当社代表取締役社長松田芳明及びその近親者が100%を直接保有しております。

3 取引条件及び取引条件の決定方針等

*2 工業用地、営業所及び社宅の賃借に関する取引条件は、工場用地及び営業所については不動産鑑定士の鑑定評価に基づいて、社宅については近隣の相場に基づいて決定しております。

*3 損害保険に関する取引条件は、一般的な保険取引と同一の条件であります。

*4 保証金の差入に関する取引条件は、独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件であります。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	(単位：円)	
	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
1株当たり純資産額	3,515.61	3,848.51
1株当たり当期純利益	280.20	364.87

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	91,374	100,134
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	259	391
(うち非支配株主持分)(百万円)	259	391
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	91,115	99,742
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(千株)	25,917	25,917

3 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	7,286	9,456
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	7,286	9,456
普通株式の期中平均株式数(千株)	26,002	25,917

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期間
株式会社 山陽レック	第4回無担保社債	2024年 7月19日		50	0.8	無担保社債	2029年 7月19日
株式会社 フラップ リソース	第1回無担保社債	2024年 11月26日		50	0.8	無担保社債	2029年 11月26日
合計				100			

(注) 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
				100

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	15,559	11,542	2.26	
1年以内に返済予定の長期借入金	3,002	4,108	0.61	
1年以内に返済予定のリース債務	288	228	-	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	10,021	17,047	0.71	2026年4月～ 2039年3月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	534	446	-	2026年4月～ 2033年3月
合計	29,405	33,372		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載しておりません。

3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	3,745	3,244	3,206	2,364
リース債務	175	137	89	29

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における半期情報等

(累計期間)	中間連結会計期間	当連結会計年度
売上高 (百万円)	222,170	468,841
税金等調整前 中間(当期)純利益 (百万円)	6,580	13,523
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 (百万円)	4,622	9,456
1株当たり 中間(当期)純利益 (円)	178.34	364.87

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年 3 月31日)	当事業年度 (2025年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,682	3,025
受取手形	296	205
売掛金	¹ 28,790	¹ 31,404
商品及び製品	23,801	27,504
仕掛品	593	666
原材料及び貯蔵品	17,595	22,480
前渡金	2,929	4,448
前払費用	379	272
未収入金	¹ 2,172	¹ 1,677
関係会社短期貸付金	3,102	4,828
その他	1,477	2,053
貸倒引当金	11	20
流動資産合計	86,809	98,545
固定資産		
有形固定資産		
建物	8,744	9,338
構築物	869	932
機械及び装置	2,699	2,935
車両運搬具	4	2
工具、器具及び備品	188	220
土地	15,806	15,806
リース資産	351	306
建設仮勘定	1,120	1,594
有形固定資産合計	29,785	31,136
無形固定資産		
借地権	10	10
ソフトウェア	1,988	2,100
その他	23	23
無形固定資産合計	2,022	2,134
投資その他の資産		
投資有価証券	1,781	1,818
関係会社株式	3,451	6,172
関係会社出資金	959	959
関係会社長期貸付金	5,775	6,395
繰延税金資産	807	1,146
その他	2,519	2,496
貸倒引当金	26	20
投資その他の資産合計	15,268	18,967
固定資産合計	47,075	52,238
資産合計	133,884	150,784

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年 3 月31日)	当事業年度 (2025年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1 11,070	1 15,016
短期借入金	15,559	11,528
1年内返済予定の長期借入金	3,002	3,920
リース債務	129	111
未払金	1,094	670
未払費用	1,613	1,787
未払法人税等	368	2,210
前受金	7,280	7,555
預り金	126	61
関係会社預り金	2,500	4,650
賞与引当金	1,043	1,203
その他	497	1,165
流動負債合計	44,286	49,883
固定負債		
長期借入金	10,021	15,122
リース債務	222	195
退職給付引当金	1,343	1,536
役員退職慰労引当金	789	795
執行役員退職慰労引当金	23	30
その他	10	31
固定負債合計	12,410	17,711
負債合計	56,696	67,594
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,559	3,559
資本剰余金		
資本準備金	4,008	4,008
資本剰余金合計	4,008	4,008
利益剰余金		
利益準備金	177	177
その他利益剰余金		
配当平均積立金	140	140
退職積立金	450	450
別途積立金	6,500	6,500
繰越利益剰余金	63,186	69,492
利益剰余金合計	70,454	76,760
自己株式	1,395	1,396
株主資本合計	76,626	82,932
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	799	807
繰延ヘッジ損益	238	550
評価・換算差額等合計	561	257
純資産合計	77,187	83,189
負債純資産合計	133,884	150,784

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
売上高	1 354,579	1 467,137
売上原価	1 329,053	1 437,703
売上総利益	25,525	29,433
販売費及び一般管理費	2 18,073	2 19,545
営業利益	7,452	9,887
営業外収益		
受取利息	1 180	1 253
受取配当金	1 1,190	1 1,159
仕入割引	1 12	1 13
為替差益	388	-
その他	215	286
営業外収益合計	1,988	1,712
営業外費用		
支払利息	1 258	1 425
為替差損	-	126
その他	85	69
営業外費用合計	344	621
経常利益	9,096	10,978
特別利益		
関係会社株式売却益	317	-
特別利益合計	317	-
税引前当期純利益	9,413	10,978
法人税、住民税及び事業税	2,333	3,208
法人税等調整額	273	220
法人税等合計	2,606	2,987
当期純利益	6,807	7,990

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2023年 4 月 1 日至 2024年 3 月31日)

(単位：百万円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	3,559	4,008	4,008
当期変動額			
剰余金の配当			
当期純利益			
自己株式の取得			
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			
当期変動額合計	-	-	-
当期末残高	3,559	4,008	4,008

	株主資本							
	利益剰余金						自己株式	株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金 合計		
		配当平均 積立金	退職積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	177	140	450	6,500	57,811	65,079	995	71,652
当期変動額								
剰余金の配当					1,432	1,432		1,432
当期純利益					6,807	6,807		6,807
自己株式の取得							400	400
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	5,375	5,375	400	4,974
当期末残高	177	140	450	6,500	63,186	70,454	1,395	76,626

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	569	50	620	72,273
当期変動額				
剰余金の配当				1,432
当期純利益				6,807
自己株式の取得				400
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	229	289	59	59
当期変動額合計	229	289	59	4,914
当期末残高	799	238	561	77,187

当事業年度(自 2024年 4 月 1 日至 2025年 3 月31日)

(単位：百万円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	3,559	4,008	4,008
当期変動額			
剰余金の配当			
当期純利益			
自己株式の取得			
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			
当期変動額合計	-	-	-
当期末残高	3,559	4,008	4,008

	株主資本							
	利益剰余金						自己株式	株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金 合計		
		配当平均 積立金	退職積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	177	140	450	6,500	63,186	70,454	1,395	76,626
当期変動額								
剰余金の配当					1,684	1,684		1,684
当期純利益					7,990	7,990		7,990
自己株式の取得							0	0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	6,305	6,305	0	6,305
当期末残高	177	140	450	6,500	69,492	76,760	1,396	82,932

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	799	238	561	77,187
当期変動額				
剰余金の配当				1,684
当期純利益				7,990
自己株式の取得				0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	7	311	303	303
当期変動額合計	7	311	303	6,001
当期末残高	807	550	257	83,189

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの...時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、
売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等...移動平均法による原価法

2 棚卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有する棚卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(1) 商品...先入先出法

(2) 製品及び仕掛品

貴金属地金 ...先入先出法

工程貴金属地金 ...総平均法

化成品 ...先入先出法

(3) 原材料...個別法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～38年

機械及び装置 2～7年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な償却年数は以下のとおりであります。

ソフトウェア(自社利用分) 5年(社内における利用可能期間)

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（５年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（５年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく期末要支給額の100%を計上しております。

(5) 執行役員退職慰労引当金

執行役員の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づき当事業年度末における要支給額の100%を計上しております。

5 収益及び費用の計上基準

(1) 貴金属地金他

当社では主として地金市場ヘインゴットなどの貴金属地金の販売や、エレクトロニクス業界などへの化成品等の貴金属製品の販売を行っております。当該取引においては、出荷時から顧客への支配移転時までの期間が通常の期間であることから、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項の適用により出荷時点で履行義務が充足され、収益の認識をしております。

また、鉱山リサイクルなど受入れ先の検収を要するものについては検収完了時点で履行義務が充足され、収益の認識をしております。

(2) 電子材料

当社では主としてエレクトロニクス業界への貴金属商品の販売を行っております。当該取引においては、出荷時から顧客への支配移転時までの期間が通常の期間であることから、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項の適用により出荷時点で履行義務が充足され、収益の認識をしております。

一部の販売については他の当事者が関与しており、製造・出荷の一連の作業は当該他の当事者により行われており、当社が在庫リスク及び価格設定の裁量権を有していないものについては、当該他の当事者により商品が提供されるように手配することが当社の履行義務であることから、代理人として取引を行っていると判断しており、代理人取引と判断したものについては純額で収益を認識しております。

(3) 食品加工原材料

当社では、すりみ・エビ・イカなどの水産品やチキン・ポーク・ビーフ・卵などの畜産品、乾燥野菜や冷凍野菜などの農産品等を加工食品メーカーや中食・外食業界などへ販売しております。当該取引の主たるものは、出荷時から顧客への支配移転時までの期間が通常の期間であることから、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項の適用により出荷時点で履行義務が充足され、収益の認識をしております。

なお、取引形態により他の当事者が関与して調達・出荷等の一連の作業が当該他の当事者に行われ、当社が在庫リスク及び価格設定の裁量権を有していないものについては、当該他の当事者により商品が提供されるように手配することが当社の履行義務であることから、代理人として取引を行っていると判断しており、代理人取引と判断したものについては純額で収益を認識しております。

また、外部へ原材料を有償支給し加工している取引については有償支給取引と判断しており、当該支給品の譲渡に係る収益は認識しておりません。

(4) その他

主として当社が行っている様々な業界から排出される廃酸、廃アルカリの無害化中間処理など、産業廃棄物の収集運搬・処理となります。

当該取引においては、処理完了時点で履行義務が充足され、収益を認識しております。

当社の取引に関する支払条件は、通常、短期のうちに支払条件が到来し、契約に重大な金融要素は含まれておりません。

6 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を、金利スワップについて特例処理の要件を満たしている場合には特例処理を、金利スワップの特例処理の要件を満たし、かつ振当処理の要件を満たす金利通貨スワップ取引については、一体処理（特例処理、振当処理）を行っております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：デリバティブ取引（為替予約取引、貴金属及び非鉄金属商品先渡取引、金利スワップ及び金利通貨スワップ）

ヘッジ対象：相場変動等による損失の可能性がある、相場変動等が評価に反映されていないもの及びキャッシュ・フローが固定されその変動が回避されるもの、並びに借入金の利息

(3) ヘッジ方針

取引契約時に為替予約による円貨額及び貴金属及び非鉄金属商品先渡取引による売却価額を確定させ、為替リスク及び相場変動リスクについてヘッジすることを原則としております。

また、金利変動リスク及び為替変動リスクをヘッジする目的で金利スワップや金利通貨スワップ取引を行っております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ手段の変動額の累計額と、ヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性の判定を行っております。

なお、特例処理によっている金利スワップ及び一体処理によっている金利通貨スワップについては、有効性の評価を省略しております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(重要な会計上の見積り)

食品関連事業に係る棚卸資産（以下、食品商品）の評価

(1) 当事業年度の貸借対照表に計上した金額

	前事業年度	当事業年度
商品及び製品	23,801百万円	27,504百万円

前事業年度末における食品商品の評価損金額は190百万円、当事業年度末における食品商品の評価損金額は120百万円となります。

前事業年度末における商品及び製品は23,801百万円であり、そのうち食品商品は16,100百万円（68%）であります。また、当事業年度末における商品及び製品は27,504百万円であり、そのうち食品商品は19,058百万円（69%）となります。これらは主として食品メーカーへ販売する原料となります。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

「第一部【企業情報】第5【経理の状況】2【財務諸表等】【注記事項】（重要な会計方針）2 棚卸資産の評価基準及び評価方法」に記載のとおり、棚卸資産の貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しており、期末における正味売却価額が取得原価を下回っている場合には、当該正味売却価額をもって貸借対照表価額としております。

正味売却価額は直近に販売実績があるものは販売実績価額をベースとし、販売実績がないものは、販売先毎の各業界における特有の状況、賞味期限までの在庫期間、市況の変化等を鑑みて見込販売価額をベースとして算出しております。

将来の予測は不確実性を伴い、市況が悪化した場合には評価損が発生するほか、食品という性質上、賞味期限による廃棄リスクなど、金額の見積もりに重要な影響を及ぼす可能性があります。

(会計方針の変更)

（「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用しております。

法人税等の計上区分に関する改正については、2022年改正会計基準第20 - 3項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による財務諸表への影響はありません。

(表示方法の変更)

（損益計算書関係）

前事業年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「補助金収入」は重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「補助金収入」26百万円、「その他」189百万円は、「その他」215百万円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権または金銭債務の金額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
短期金銭債権	1,652	2,107
短期金銭債務	1,156	2,306

- 2 当社は資金調達の機動性を高めるため、株式会社みずほ銀行をアレンジャーとする計4行の銀行との間に借入枠(コミットメントライン)を設定しております。なお、当事業年度末における当該借入枠に基づく借入の実行状況は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
借入枠	3,000	3,000
借入実行残高	-	-
差引借入未実行残高	3,000	3,000

3 保証債務等

子会社の金融機関からの借入金等及び仕入債務に対して債務保証を行っており、極度額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
保証債務	5,034	5,969

(注) 外貨建保証債務は期末日の為替相場により円換算しております。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
営業取引による取引高		
売上高	7,215	11,992
仕入高	25,457	34,448
営業取引以外の取引高	1,859	1,457

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
運送費及び保管費	3,484百万円	3,616百万円
支払手数料	2,013	2,749
貸倒引当金繰入額	16	9
給与手当及び賞与	4,690	4,811
賞与引当金繰入額	662	767
役員退職慰労引当金繰入額	58	44
執行役員退職慰労引当金繰入額	6	6
減価償却費	647	821
おおよその割合		
販売費	72%	70%
一般管理費	28%	30%

(有価証券関係)

前事業年度(2024年 3 月31日)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格のない株式等のため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	貸借対照表計上額 (百万円)
子会社株式	3,376
関連会社株式	75
計	3,451

当事業年度(2025年 3 月31日)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格のない株式等のため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	貸借対照表計上額 (百万円)
子会社株式	6,097
関連会社株式	75
計	6,172

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(単位：百万円)	
	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	44	127
賞与引当金	304	350
未払法定福利費	48	55
貸倒引当金	11	12
役員退職慰労引当金	241	250
投資有価証券等評価損	67	69
退職給付引当金	407	482
棚卸資産評価損	58	36
税務上の収益認識差額	77	89
繰延ヘッジ損益	105	242
その他	119	146
繰延税金資産小計	1,485	1,864
評価性引当額	325	346
繰延税金資産合計	1,159	1,518
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	352	371
繰延税金負債合計	352	371
繰延税金資産の純額	807	1,146

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率と差異発生原因の主な内訳

	(単位：%)	
	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
法定実効税率	30.6	30.6
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	0.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	3.4	2.7
地方税均等割	0.4	0.3
評価性引当額	0.1	0.1
試験研究費特別控除等の税額控除	1.3	1.3
外国子会社配当源泉	1.1	0.0
当期と当期末の法定実効税率の差異	-	0.2
その他	0.2	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.7	27.2

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立し、2026年4月1日以後開始する事業年度より「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.6%から31.5%に変更し計算しております。

この変更により、当事業年度の繰延税金資産(繰延税金負債の金額を控除した金額)が5百万円増加し、法人税等調整額が16百万円、その他有価証券評価差額金が10百万円減少しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「第一部[企業情報] 第5[経理の状況] 2 [財務諸表等] [注記事項] (重要な会計方針) 5 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	13,746	1,136	196	526	14,686	5,347
	構築物	1,882	164	20	98	2,026	1,094
	機械装置	12,377	1,162	78	923	13,461	10,525
	車両運搬具	44	-	-	1	44	42
	工具、器具備品	1,177	135	66	102	1,245	1,025
	土地	15,806	-	-	-	15,806	-
	リース資産	763	92	261	137	595	288
	建設仮勘定	1,120	3,100	2,627	-	1,594	-
	計	46,918	5,792	3,249	1,791	49,461	18,324
無形固定資産	借地権	10	-	-	-	10	-
	ソフトウェア	4,302	562	7	449	4,858	2,757
	電話加入権	23	-	-	-	23	-
	計	4,336	562	7	449	4,892	2,757

(注) 当期首残高及び当期末残高については、取得価額により記載しております。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	37	20	18	40
賞与引当金	1,043	1,203	1,043	1,203
役員退職慰労引当金	789	44	39	795
執行役員退職慰労引当金	23	6	-	30

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
買取手数料	無料
公告掲載方法	当会社の公告は、電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりであります。 https://www.matsuda-sangyo.co.jp
株主に対する特典	株主優待制度 (1)対象株主 毎年3月31日現在、当社株式を1単元(100株)以上かつ1年以上継続して保有する国内在住の株主様(1年以上継続保有の株主様とは、同じ株主番号で3月31日及び9月30日現在の株主名簿に3回以上連続で記載または記録された株主様)。 (2)優待内容 2,000円相当の当社オリジナル「QUOカード」

(注) 1 基準日後に株式を取得した者の議決権行使

必要がある場合は、取締役会の決議によって、あらかじめ公告して一定の日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者をもって、その権利を行使することができる株主または登録質権者とすることができる。

2 単元未満株主についての権利

当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

取得請求権付株式の取得を請求する権利

募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第75期(自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)
2024年 6 月26日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書

事業年度 第75期(自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)
2024年 6 月26日関東財務局長に提出。

(3) 半期報告書及び確認書

第76期中(自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)
2024年11月13日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第 9 号の 2 (株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づき臨時報告書
2024年 7 月 3 日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2025年 6 月24日

松田産業株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 村 裕 輔

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉 岡 浩 二

< 連結財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている松田産業株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、松田産業株式会社及び連結子会社の2025年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

食品関連事業に係る棚卸資産の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社の当連結会計年度の連結貸借対照表において、商品及び製品34,344百万円が計上されている。これらのうち、食品関連事業に係る棚卸資産（以下「食品商品」という）は19,236百万円であり、総資産の11.4%を占めている。会社が取扱う食品商品の多くは冷凍品のため長期間の保存が可能であるが、食品という性質上賞味期限がある。</p> <p>4. 会計方針に関する事項（1）重要な資産の評価基準及び評価方法 棚卸資産に記載のとおり、棚卸資産の連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しており、期末における正味売却価額が取得原価を下回っている場合には、当該正味売却価額をもって連結貸借対照表価額としている。</p> <p>正味売却価額は、直近に販売実績があるものは販売実績価額をベースとして算出し、また直近に販売実績がないものは、販売先毎の各業界における特有の状況、賞味期限までの在庫期間、市況の変化等を鑑みて見込販売価額をベースとして算出している。</p> <p>食品商品の評価において、正味売却価額の見積りに使用した重要な仮定には不確実性を伴い経営者による判断を必要とすることから、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、食品商品の評価の妥当性を検討するにあたり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <p>(1)内部統制の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 在庫管理及び棚卸資産評価結果のレビューと承認に関する内部統制について理解するとともに、整備及び運用状況を評価した。 棚卸資産の評価に関連するITシステムの全般統制及び業務処理統制の整備・運用状況について、当監査法人内部のIT専門家と連携して検討した。 <p>(2)正味売却価額の見積りの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営者による正味売却価額の見積りの精度を評価するため、過去の評価損計上額について遡及的検討を実施した。 期末前後での販売実績がある食品商品の正味売却価額については、当該実績に基づく価額と照合した。 直近に販売実績のない食品商品については、正味売却価額の見積り方法とその根拠について営業管理の担当者及び経理責任者に質問したほか、販売見込価額に関する算定根拠資料等の閲覧や期末日後の販売実績との照合を実施した。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な

監査証拠を入手する。

- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、松田産業株式会社の2025年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、松田産業株式会社が2025年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

< 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等（３）【監査の状況】に記載されている。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2025年 6 月24日

松田産業株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 村 裕 輔

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉 岡 浩 二

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている松田産業株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの第76期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、松田産業株式会社の2025年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

食品関連事業に係る棚卸資産の評価

松田産業株式会社の当事業年度の貸借対照表において、商品及び製品27,504百万円が計上されている。これらのうち、食品関連事業に係る棚卸資産（以下「食品商品」という）は19,058百万円であり、総資産の12.6%を占めている。

連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項（食品関連事業に係る棚卸資産の評価）と同一内容であるため、記載を省略している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告

することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。